

このように準官人の集団が存在することから、官衙関連遺物出土遺跡が香取神宮付近に分布がまとまるのは当然のことと考えられる。

なお、香取郡内の官衙は郡衙のほかには真敷駅と荒海駅の2駅がある。

迺瑛郡 郡域の中央部に分布の中心が認められる。分布の中心にある柳台遺跡 (No.168) からは、「守」・「千校尉」の墨書土器、高盤6個体、鈔帯金具が検出されており、同遺跡の北方には八日市場大寺廃寺跡が所在する。また、南方には延喜式内社の老尾神社が所在し、これらの付近に官衙が存在する可能性は高いと考えられる。

海上郡 郡北西部に集中してみられる。御座ノ内遺跡 (No.177) 付近に分布の中心があり、遺跡の南には初期寺院の木内廃寺跡がある。

以上、下総地域11郡の官衙関連遺物出土遺跡の集中分布範囲を概観したが、郡によって1か所若しくは2か所に分布が集中することがわかった。また、分布の集中する範囲内に初期寺院若しくは延喜式内社が多く含まれ、駅路及び駅の推定地とも重なる例が多いことがわかった。同時にこれらの集中範囲が7世紀代の大型古墳の分布と重なることが多い点も見逃せないことである。

官衙関連遺物の集中する分布範囲が、従来からの研究の各官衙推定地と重なる結果は、ある程度予測していたが、このようにかなりの確率で重複することが判明したことはこの方法が有益であるということになると思われる。

見方をかえれば、今回の結果は当たり前のことと評されるであろう。しかし、官衙の推定地が不明な地域もある。あくまでも官衙研究の補助的な役割ではあるが、地道な努力を重ねて行くことも大切と考える。房総三国における官衙関連遺物をさらに丹念に調査する必要がある。

5 おわりに

下総地域において180遺跡から官衙関連遺物の出土がみられた。1997年に房総3国の仏教関連遺物の集成を行ったが¹⁹⁾、その際の仏教関連遺跡数は房総3国で199か所であり、生産遺跡(寺院へ供給する瓦窯跡と仏器を生産していた須恵器窯跡)や小金銅仏出土地等を含めると229か所であった。官衙関連遺物の出土遺跡が下総地域のみでこれに匹敵する数量になったことは、予想外のことであった。

また、改めて気づいた点は仏教関連遺物と官衙関連遺物出土遺跡の多くは複合する遺跡であったことである。古代の交通路の要衝は今回の官衙遺跡の分布とも当然ながら重なるものであり、多くの初期寺院及び延喜式内社の分布と重なるものであった。今回の集成は、期せずして当時における都会と鄙の位置を部分的ながら示す結果となった。

註

- 1 山中敏史 1994 「第二節 官衙遺跡の判定方法 序章 古代地方官衙遺跡研究の意義と方法」『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
- 2 林部 均 1986 「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72巻第1号 日本考古学協会
- 3 富田和夫 2002 「飛鳥・奈良時代の官衙と土器 -官衙的土器と搬入土器の様相-」『埼玉考古学会シンポジウム 坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会
- 4 安田竜太郎 1981 「食膳形態土器の構成」『平城宮発掘調査報告Ⅺ 第1次大極殿地域の調査』奈良国立文化財研究所

- 5 國史大系編集會 1977 「軍防令」『令義解』 國史大系本 吉川弘文館
- 6 財団法人千葉県資料研究財団 2001 「千葉県の歴史 通史編 古代2」 千葉県
財団法人千葉県資料研究財団 1998 「千葉県の歴史 資料編 考古3 (奈良・平安時代)」 千葉県
- 7 千葉県立中央図書館 1972 「千葉県地名変遷総覧」 千葉県郷土資料刊行会
- 8 田中広明 2005 「東国の地方官衙・集落と陶硯」『茨城県考古学協会シンポジウム 古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として－』 茨城県考古学協会
- 9 田中広明 1991 「律令時代の身分表象(Ⅱ)－腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代－」『土曜考古』第16号 土曜考古学研究会
- 10 萩原恭一 1986 「千葉市大北遺跡の検討」『千葉県文化財センター研究紀要10』(財)千葉県文化財センター
- 11 山路直充 2001 「第二章 古代の交通路」『千葉県の歴史 通史編 古代2』 千葉県
- 12 松本太郎・松田礼子氏は、下総総社跡が下総国府推定地内に位置し、高台付杯、蓋、盤類(高盤を含む)等の豊富な食膳具構成で多量に土器が出土したこと、大型で固定化したまま使用されたと思われる甕が多数出土していることや廃棄された高台付杯・甕等の中に炭化飯が混入していたことから、下総総社跡付近に国厨が存在した可能性を指摘している。
松本太郎・松田礼子 1996 「第6章 考察」『平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告 市川市出土遺物の分析－古代の鉄・土器について－』 市川市教育委員会
- 13 利部 修 1998 「東北以北の双耳杯と環状凸帯付長瓶壺」『研究紀要13』 秋田県埋蔵文化財センター
- 14 伊藤正人 2000 「耳皿ノート」『中近世土器の基礎研究XV』 日本中世土器研究会
- 15 石戸啓夫 1984 「大源太遺跡出土の畿内系土師器について」『藤沢市片瀬 大源太遺跡の発掘調査』 青山学院大学・大源太遺跡発掘調査団
- 16 山中敏史 1994 「第三節 館・厨家の構造と機能」『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房
- 17 下総地域の延喜式内社の位置については、下記による。
式内社研究会 1976 『式内社調査報告 第十一巻 東海道6』 皇學館大學出版部
- 18 國史大系編集會 1977 「延喜式 卷第三 神祇三」『新訂増補 國史大系 交替式・弘仁式・延喜式前編』 吉川弘文館
- 19 石田広美・小林信一・糸原 清 1997 「千葉県文化財センター研究紀要18 古代仏教遺跡の諸問題－重要遺跡確認調査の成果と課題1－」(財)千葉県文化財センター

第6表 下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表

凡 例

- 1 郡の所在については、『千葉県の歴史通史編 古代2』・『千葉県地名変遷総覧』等を参考とした。
なお、岡田郡については『延喜式』民部省頭注に、延喜四年（904）十二月十日、岡田郡を改めて豊田郡となすとあり、10世紀以降には、岡田郡は豊田郡に名称が変更されていることが知られる。今回取り扱っている遺物の大部分が8世紀～9世紀にかけてのものであるので、第6表では後の豊田郡の名称を採らずに岡田郡に統一して掲載した。
また、さらに後に豊田郡西部の一部を割いて別に岡田郡が建てられているが、第6表で使用している岡田郡は延喜4年までの岡田郡のことを指している。
- 2 官衙関連遺物が検出された遺跡については、参考として転用硯の出土点数を記載した。
- 3 硯・銚帯金具・特殊遺物欄の中にみられる算用数字はそれぞれの遺物の出土個体数を表している。官衙関連墨書等欄では同一文字等が複数検出されているものみに算用数字を附した。
- 4 銚帯金具は裏金具のみのものも個体数に含んだ数値である。

第6表 下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
1	結城	油内遺跡	須恵器高盤1 転用硯(灰釉陶器高台付皿1、須恵器杯1)			
2	結城	下り松遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤2 転用硯(灰釉陶器碗1、須恵器蓋1・甕1)		土師器羽釜1 須恵器双耳杯2	
3	結城	峯崎遺跡	須恵器円面硯1・小型円面硯1 須恵器高盤4 転用硯(灰釉陶器碗2、須恵器蓋3・杯1・盤1・皿2・甕4)		須恵器双耳杯4 土師器耳皿1 三彩陶器(小壺1・短頸壺1・瓶12) 白磁碗1	「公人」
4	結城	浜ノ台窯跡	須恵器円面硯1		須恵器双耳杯3	
5	岡田	下栗野方台遺跡	須恵器円面硯1 転用硯(須恵器高台付杯1)		土師器羽釜1 土師器置きカマド1	
6	岡田	小貝川川底遺跡	須恵器円面硯2 高盤2 転用硯(須恵器杯1・高台付杯2)		須恵器双耳杯4	
7	岡田	一本木遺跡			須恵器双耳杯1	
8	岡田	菅葉遺跡	須恵器円面硯2			
9	岡田	国生本屋敷遺跡	土師器高盤1			
10	岡田	大生郷遺跡			須恵器双耳杯1	
11	猿島	本田山A遺跡	須恵器高盤1	巡方(銅製)1		
12	猿島	北新田A遺跡	須恵器高盤1 土師器高盤1		須恵器耳皿1	「厨」
13	猿島	羽黒遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤1	鉸具(銅製)1		
14	相馬	花前Ⅱ-1・Ⅱ-2遺跡	須恵器高盤2		土師器高台付耳皿1	
15	相馬	中馬場遺跡		巡方(青銅製)1	土師器羽釜1	
16	相馬	法華坊遺跡			ロクロ土師器高台付耳皿1	
17	相馬	南台遺跡	須恵器高盤1			
18	相馬	大井大畑遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器甕1)			
19	相馬	大久保遺跡		巡方(銅製)2		
20	相馬	高根遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器蓋1)	鈍尾(銅製)1		
21	相馬	新木東台遺跡	須恵器高盤1	巡方(石製)1		
22	相馬	北久保作遺跡	須恵器高盤1	丸軛(銅製)1		
23	相馬	野守遺跡	畿内産土師器(高盤1・杯A1・杯B1) 転用硯(須恵器高台付杯2)	巡方(青銅製)4 巡方裏金具(青銅製)1 丸軛(青銅製)2 鈍尾(青銅製)3 丸軛裏金具(青銅製)1 鉸具(青銅製)2	鉄製小札1	「介」
24	相馬	日秀西遺跡	円面硯1 畿内産土師器杯B1	裏金具(金属製)2		
25	相馬	チアミ遺跡	須恵器円面硯1			
26	相馬	羽黒前遺跡	転用硯(須恵器蓋1)	丸軛(銅製)1		
27	相馬	布佐・余間戸遺跡	須恵器高盤1 転用硯(ロクロ土師器高台付杯1)	鉸具(青銅製)1		
28	葛飾	町道遺跡	須恵器高盤1			
29	葛飾	陣屋遺跡	須恵器円面硯1	巡方(銅製)1		
30	葛飾	小湖山下北遺跡	須恵器円面硯1			

著者名	発行年	書籍名	発行機関
川津法伸 平石尚和	1999	「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告 下り松遺跡・油内遺跡」	勸茨城県教育財団
川津法伸 平石尚和	1999	「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告 下り松遺跡・油内遺跡」	勸茨城県教育財団
松田政基 齊藤伸明 広岡公夫 黒原秀夫	1996	「茨城県結城市峯崎遺跡」結城市文化財調査報告書第7集	結城市
三和町史編さん委員会	1992	「猿島郡三和町尾崎浜ノ台竈跡調査報告」[三和町史 資料編 原始・古代・中世]	三和町
玉井輝男 赤居博之 酒井弘志	1993	「下栗野方台遺跡－工場用地建設に伴う緊急発掘調査報告書－」	千代川村教育委員会
赤井博之	2003	「第六章 奈良・平安時代」[村史 千代川村 生活史第五巻 前近代通史]	千代川村編纂委員会
藤原 均	1997	「茨城県結城郡八千代町一本木遺跡発掘調査報告書」	八千代町教育委員会
赤井博之	2003	「第六章 奈良・平安時代」[村史 千代川村 生活史 第五巻 前近代通史]	千代川村編纂委員会
川井正一	1987	「国生本屋敷遺跡発掘調査報告書」	石下町史編纂室
桜井次郎	1981	「大生郷工業団地内埋蔵文化財調査報告書－大生郷遺跡－」	勸茨城県教育財団
堀苑孝志他	2001	「県営担い手育成畑地帯総合整備事業(上大野地区)埋蔵文化財発掘調査(幹線道路部分)報告書－地蔵遺跡・本田山A遺跡・B遺跡発掘調査報告書－」	総和町教育委員会
中沢時宗 桜井一美 和田雄次	1986	「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1(総和地区)」	勸茨城県教育財団
駒澤悦郎	2003	「羽黒遺跡－一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書－」	勸茨城県教育財団
郷堀英司 田井知二他	1985	「花前Ⅱ－1・花前Ⅱ－2」[常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－花前Ⅱ－1・花前Ⅱ－2・矢船－]	勸千葉県文化財センター
下津谷達男 古宮隆信他	1972	「中馬場遺跡」[中馬場遺跡・妻子原遺跡]	日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
古宮隆信他	1976	「中馬場遺跡第三次発掘調査報告書」	柏市教育委員会
古宮隆信他	1978	「法華坊」[根戸城]	我孫子市教育委員会
矢野慎一 古宮隆信	1978	「南台遺跡」[戸張遺跡群南台遺跡発掘調査第二次報告書(不動山遺跡)]	南台遺跡発掘調査団
小林清隆他	1987	「大井大畑遺跡」[大井東山遺跡・大井大畑遺跡]	勸千葉県文化財センター
石田守一	1985	「大久保遺跡」	我孫子市教育委員会
岡村眞文	1987	「高根遺跡」	我孫子市教育委員会
石田守一	1998	「第3章 下総 62 新木東台遺跡」[千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)]県史シリーズ11	千葉県
石田守一	1987	「Ⅲ下総国 7 我孫子市新木東台遺跡(旧相馬郡)」[房総における歴史時代土器の研究]	房総歴史考古学研究会
岡村眞文	1985	「北久保作遺跡」[別当地・南久保作・北久保作遺跡]	我孫子市教育委員会
辻 史郎	2001	「野守遺跡第5次」[平成12年度市内遺跡発掘調査報告書 五郎地遺跡第1次・野守遺跡第5次]	我孫子市教育委員会
辻 史郎	2003	「野守遺跡第1次・3次・7次調査」	
辻 史郎	2001	「野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書」	
上野純司他	1980	「我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」	勸千葉県文化財センター
林部 均	1992	「律令国家と畿内産土師器－飛鳥・奈良時代の東日本と西日本－」[考古学雑誌]第77巻第4号	日本考古学会
辻 史郎 西沢隆治	1998	「チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書」	我孫子市教育委員会
辻 史郎	1996	「羽黒前遺跡第3次発掘調査概報」	我孫子市教育委員会
高野博光他	1981	「布佐・余間戸遺跡」	我孫子市布佐・余間戸遺跡調査会
長谷川清一 荻原 淳	2004	「町道遺跡」[町道遺跡・町道中遺跡－町営住宅建設等に伴う埋蔵文化財発掘調査－]	庄和町教育委員会
長谷川清一 荻原 淳	2002	「陣屋遺跡－第1・3・4・5・6・7次調査の記録－」	庄和町教育委員会
中野達也	2001	「小淵山下北遺跡4・5次」[花積内谷耕地遺跡6次 花積台耕地遺跡5次 谷向遺跡 塚内16号墳 塚内17号墳 小淵山下北遺跡4・5次]	春日部市教育委員会

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
31	葛飾	町畑遺跡	土師器高盤1	丸柄(石製)1	鉄製鎚1	
32	葛飾	小野遺跡	須恵器高盤4 土師器高盤3	鉸具(青銅製)1 巡方(青銅製)12 丸柄(青銅製)2 鉈尾(青銅製)1	須恵器小型平瓶1	
33	葛飾	古録天東遺跡		巡方(銅製)1		
34	葛飾	坂花遺跡	ロクロ土師器高盤1			「國厨」
35	葛飾	双賀辺田No.1遺跡	転用硯(灰釉陶器長頸壺1・須恵器蓋1・杯11・甕2)	巡方(青銅製)2		
36	葛飾	根郷貝塚	ロクロ土師器高盤1			
37	葛飾	下総国分遺跡	須恵器高盤1 土師器高盤3 転用硯(須恵器甕1・土師器高台付杯1・高台付盤1)	鉸具(鉄製)2	灰釉陶器高台付耳皿1 灰釉陶器手付瓶1 灰釉陶器平瓶1	「法印」「郷長」「官」「玉作」「造□」
38	葛飾	下総国分尼寺跡	転用硯(須恵器高台付杯1・甕1)		二彩陶器小壺1	「尼寺」3「尼」2「鎚・正麻呂」「廳」「新院」
39	葛飾	国府台遺跡	須恵器円面硯1 畿内産土師器杯1 須恵器高盤27 土師器高盤13 転用硯(須恵器蓋1・杯1・高台付杯1・甕2・長頸瓶1)	巡方(鉄製・銀のみ銅製)1 巡方(金銅製)1 鉈尾(銅製)1 巡方(石製)1 鉈尾1	高台付皿二彩陶器1 灰釉陶器手付瓶1 土師器置きカマド3 土師器羽釜3 青銅製八稜鏡1 土師器高台付耳皿2 奈良三彩小壺2 金銅製鈴1 鉄製小札1 緑釉陶器段皿1 須恵器双耳杯1 小札(数百点)	「所政」「郡」「相馬」
40	葛飾	須和田遺跡	須恵器円面硯3 土師器円面硯1 須恵器高盤6 土師器高盤5 転用硯(須恵器蓋1・高台付杯1・蓋1・甕1・土師器蓋1・高台付杯1)			「右京」「博士館」

著者名	発行年	書籍名	発行機関
川根正教他	1994	「加地区遺跡群Ⅲ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.19	流山市教育委員会
川根正教他	1991	「加地区遺跡群Ⅱ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.14	
川根正教他	2000	「加地区遺跡群Ⅳ」流山市埋蔵文化財発掘調査報告Vol.29	
大森隆志他	1999	「小野-小野遺跡第1地点発掘調査報告書-」	松戸市遺跡調査会
峰村 篤他	2002	「小野遺跡-第11地点発掘調査報告書-」	
谷口 榮他	1991	「古録天東遺跡」「古録天東遺跡・古録天遺跡Ⅱ」	葛飾区遺跡調査会
松尾昌彦	1994	「「厨」銘墨書土器考-松戸市坂花遺跡出土例をめぐって-」『松戸市立博物館紀要』第1号	松戸市立博物館
道澤 明他	1988	「千葉県鎌ヶ谷市双賀辺田No.1遺跡発掘調査報告書」	鎌ヶ谷市教育委員会
犬塚俊雄他	1988	「千葉県鎌ヶ谷市根郷貝塚発掘調査報告書」	鎌ヶ谷市教育委員会
寺村光晴他	1974	「下総国分の遺跡」	和洋女子大学
寺村光晴他	2001	「下総国分の遺跡Ⅱ第2・3次発掘調査報告-下総国分尼寺寺域北東部の発掘調査-」	学校法人和洋学園
山路直充	1995	「下総国分寺-いま見つけなおす下総の天平文化-」市立市川考古博物館図録17	市立市川考古博物館
寺村光晴他	2002	「下総国分の遺跡Ⅲ第4・5・6次発掘調査報告-下総国分尼寺跡北東隣接地の発掘調査-」	学校法人和洋学園
斉藤忠昭 石田 勝	1989	「2. 下総国分遺跡」『昭和63年度市川市埋蔵文化財調査報告』	市川市教育委員会
宮内勝巳	1982	「5. 下総国分遺跡」『昭和56年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
宮内勝巳 斉藤忠昭	1985	「2. 下総国分遺跡」『昭和59年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
斉藤忠昭	1988	「2. 下総国分遺跡」『昭和62年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	
松本太郎他	1994	「2. 下総国分尼寺跡」『平成5年度市川市内遺跡発掘調査報告』	市川市教育委員会
松本太郎	1997	「Ⅲ事例報告 4下総国分寺の変遷」『古代末期の葛飾郡-葛飾区郷土と天文の博物館地域史フォーラム 地域の歴史を求めて-』	倫書房
堀越正行 山路直充他	1986	「下総国分尼寺跡Ⅳ昭和60年度調査報告」	市立市川考古博物館
山路直充他	1995	「下総国分寺-いま見つけなおす下総の天平文化-」市立市川考古博物館図録17	
山路直充	1998	「第3章 下総 71 下総国分尼寺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11	千葉県
滝口 宏	1974	「第3章 国分寺遺立の発掘」『市川市史』第2巻古代・中世・近世	株式会社吉川弘文館
平野元三郎 滝口 宏	1933	「下総国分寺址考」『史蹟名勝天然記念物調査』第10輯	千葉県
堀越正行 大村 直 山路直充	1985	「下総国分尼寺跡Ⅲ昭和59年度調査報告」	市立市川考古博物館
斉藤忠昭	1991	「1. 国府台遺跡」『平成2年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
菊地 真 松岡有希子 斉藤一真他	2002	「千葉県市川市下総国府跡-第29地点発掘調査報告書-」	国府台遺跡第29地点調査会
松本太郎 松田礼子他	2001	「千葉県市川市下総国府跡-国府台遺跡緊急確認調査報告書-」	市川市教育委員会
桑原 護 宮内勝巳	1981	「1. 市営総合運動場内遺跡」『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告書』	
宮内勝巳	1983	「下総 東京湾における奈良・平安時代土器の様相」『房総における奈良・平安時代の土器』	史館同人
石田広美	1983	「下総 下総における八世紀の搬入土器」『房総における奈良・平安時代の土器』	
山路直充	1998	「第3章 下総 66 国府関連遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11	千葉県
松本太郎 松田礼子 時信武史他	2000	「平成11年度市川市内遺跡発掘調査報告-国府台遺跡第46・48-54・41-2地点、須和田遺跡第48・49・51・52地点、下総国分寺跡第47-50次、下総国分尼寺跡第41・43地点、国分遺跡第61-63地点、曾谷遺跡第37地点、木戸口遺跡第2地点、東新山遺跡F地点、大宮越遺跡第4・5地点-」	市川市教育委員会
寺村光晴他	2004	「下総国府台 和洋学園国府台キャンパス内遺跡第1-4次発掘調査報告-下総国府跡の発掘調査-」	学校法人和洋学園
松本太郎 松田礼子	1996	「第3章下総総社跡発掘調査報告書」『市川市出土遺物の分析-古代の鉄・土器について-』平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告	市川市教育委員会
松本太郎	1996	「7 市川市国府台遺跡第3地点」『平成7年度 千葉県遺跡調査研究発表会要旨』	千葉県文化財法人連絡協議会
斉藤忠昭 石田 勝他	1989	「1. 須和田遺跡」『昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
松田礼子他	1992	「平成3年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告-須和田遺跡 第6地点-」	
斉藤忠昭	1993	「1. 須和田遺跡」『平成4年度市川市内遺跡発掘調査報告書』	
佐々木和博	1984	「博士館」『墨書土器私考』『史館』第17号	史館同人
杉原莊介他	1971	「六 古墳文化-土師時代-」『市川市史』第1巻 原始・古代	株式会社吉川弘文館

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈿帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
41	葛飾	下総国分僧寺	須恵器門面硯2 須恵器高盤2 転用硯(須恵器杯1・高台付杯2・高台付皿1・甕3・瓶1、土師器杯4・高台付杯1・皿6・高台付皿1)		青銅製鈴1	「国厨」「院」「廣・院」「□(政カ)」「尼寺」2「造寺」 「□京」「国」「講院」「一院」 「□(勤)」「□大」「司カ」 「門」「海上□」「東寺」「講院」 「院黒成」「一院」「大寺」
42	葛飾	曾谷貝塚	土師器高盤4			ヘラ書き「軍」
43	葛飾	山王台遺跡第1・2地点	土師器高盤1			
44	葛飾	後畑遺跡第1地点		巡方(青銅製)2		
45	葛飾	小田山遺跡第2地点	転用硯(須恵器甕1)	丸柄(金銅製カ)1		
46	葛飾	本郷台遺跡		鉦尾(銅製)1	土師器置きカマド1	
47	葛飾	印内台遺跡	須恵器門面硯1 畿内産土師器杯蓋1 須恵器高盤3 転用硯(須恵器杯1・甕3・長頸瓶1・壺1、土師器杯5・甕1)	巡方(金銅製)2 丸柄(銅製)4 丸柄(青銅製)1 鉦尾(青銅製)1 巡方(石製)1 丸柄(石製)1	土師器羽釜3	「大門」「門」11「関」
48	葛飾	東中山台遺跡群(18)	須恵器高盤1 転用硯(須恵器杯1)			「□歳」「荷」
49	葛飾	夏見大塚遺跡	転用硯(須恵器杯1)	鉦尾(青銅製)1		
50	千葉	直道遺跡		丸柄(銅製)1 鉦具(銅製)1		
51	千葉	胸形遺跡		巡方(青銅製)1		
52	千葉	砂子遺跡C区		丸柄(金銅製)1		
53	千葉	戸張作遺跡		巡方(鉄製)1		
54	千葉	矢作貝塚	畿内産土師器杯A I 1			
55	千葉	根崎遺跡	畿内産土師器杯片1 転用硯(須恵器甕1)		土師器置きカマド1 灰釉陶器平瓶1	
56	千葉	山王遺跡		丸柄(銅製)1 鉦具(銅製)1		
57	千葉	和良比遺跡	須恵器高盤2			
58	千葉	吉見台遺跡B地点	須恵器門面硯1			
59	千葉	鷺谷津遺跡	須恵器風字硯1 畿内産土師器杯2 転用硯(須恵器蓋1・高台付杯1・甕5・高台付壺1)	巡方(銅製)2 鉦尾(銅製)1	灰釉陶器把手付小瓶1 須恵器小型平瓶1	
60	千葉	観音塚遺跡	畿内産土師器(杯A 1・杯B(高台付杯)1・杯C 1・盤1・皿2(破片)・甕1) 他破片多数 須恵器高盤1 転用硯(須恵器高台付杯1・杯1・甕2、土師器杯3)	巡方(銅製)1 鉦尾(銅製)2 鉦尾(金銅製)2	金銅製鈴1 土師器羽釜1 土師器置きカマド1 灰釉陶器段皿1	「子驛□」

著者名	発行年	書籍名	発行機関
山路直充 領塚正浩 辻 史郎他	1994	『下総国分寺跡-平成元～5年度発掘調査報告書-』	市川市教育委員会
宮内勝巳	1984	『1. 下総国分寺跡(イ)第13次』『昭和58年度埋蔵文化財発掘調査報告』	
山路直充他	1995	『下総国分寺-いま見つめなおす下総の天平文化-』市立市川考古博物館図録17	市立市川考古博物館
山路直充	1998	『第3章 下総 70 下総国分僧寺跡』『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』 県史シリーズ11	千葉県
山路直充 領塚正浩 辻 史郎他	1994	『下総国分寺跡-平成元～5年度発掘調査報告書-』	市川市教育委員会
滝口 宏他	1975	『下総国分僧寺址寺城北限確認調査(速報)』『昭和49年度市立市川博物館年報』	市立市川博物館
宮内勝巳 花輪 宏	1985	『曾谷貝塚』『昭和59年度市川東部遺跡群発掘調査報告』	市川市教育委員会
石橋邦雄	1986	『1. 曾谷貝塚(2)第17地点(曾谷4丁目555番地所在遺跡)』『昭和60年度市川東部遺跡群 発掘調査報告』	
齊藤忠昭 石田 勝	1981	『3. 山王台遺跡』『昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告』	市川市教育委員会
松田礼子	1990	『平成元年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告-古作貝塚第1地点・国分平川遺跡第1地 点・下台北遺跡第2地点・後畑遺跡第1地点・下総国分遺跡第22地点・第23地点-』	市川市教育委員会
松本太郎	1996	『平成7年度市川市内遺跡発掘調査報告書-国府台遺跡第8地点・第9地点・下総国分寺 跡第39次・曾谷遺跡第33地点・第34地点・山ノ後遺跡第2地点・小田山遺跡第2地点・法 伝遺跡第8地点-』	市川市教育委員会
栗原薫子	1999	『本郷台遺跡-第4次発掘調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
岡崎文喜	1983	『本郷台Ⅱ-奈良・平安時代を中心とした集落址の調査-』	船橋市遺跡調査会・本郷台遺跡第2次調査団
石井 徳他	1980	『印内台-古墳・奈良・平安時代の集落址、墓址の発掘調査概報-』	印内台遺跡調査団
石坂雅樹	1991	『千葉県船橋市印内台遺跡-第4次調査報告書-』	船橋市教育委員会
道上 文 栗原薫子他	1990	『千葉県船橋市印内台遺跡-第7次・8次調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
間宮政光	1994	『千葉県船橋市印内台遺跡-第12次発掘調査報告書-』	
石坂雅樹	2001	『千葉県船橋市印内台遺跡群(20)』	
白井太郎	1998	『千葉県船橋市印内台遺跡群(21)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
石坂雅樹 山岡磨由子	1999	『千葉県船橋市印内台遺跡群(24)』	
石坂雅樹	1999	『1 印内台遺跡群(25)』『船橋市内遺跡発掘調査報告書』	船橋市教育委員会
白井太郎	2002	『千葉県船橋市印内台遺跡群(27)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
石坂雅樹	2003	『千葉県船橋市印内台遺跡群(32)』	船橋市教育委員会
湯原勝美 松田政基	1996	『千葉県船橋市印内台遺跡-第17次発掘調査報告書-』	船橋市遺跡調査会
栗原薫子	2002	『東中山台遺跡群(18)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
長内美智枝他	1989	『夏見大塚遺跡(第4次)』	夏見大塚遺跡第4次発掘調査団
白石太郎	2001	『夏見大塚遺跡(15)』	船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財セ ンター
飛田正美 梁瀬裕一	1995	『千葉市直道遺跡』	船千葉市文化財調査協会
対馬郁夫他	1978	『駒形遺跡 第1次・第2次発掘調査報告書』	駒形遺跡発掘調査団
飛田正美	1990	『千葉市砂子遺跡C区』	船千葉市文化財調査協会
菊地健一他	1998	『千葉市戸張作遺跡1』	船千葉市文化財調査協会
清藤一順他	1981	『千葉市矢作貝塚』	船千葉県文化財センター
林部 均	1986	『東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器』『考古学雑誌』第72巻第1号	日本考古学会
山口典子	1986	『根崎遺跡』『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財発掘調査報告書-五味ノ木遺跡・殿山堀 込遺跡・廿五里城跡・根崎遺跡・京瀬台遺跡・柳沢遺跡-』	船千葉県文化財センター
湖口淳一	1997	『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-根崎遺跡-』	
佐藤順一	1999	『千葉市根崎遺跡-K地点-』	船千葉市文化財調査協会
白根義久	1995	『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 山王遺跡』	船千葉市文化財調査協会
阿部寿彦他	1991	『和良比遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	船印旛郡市文化財センター
林田利之	1997	『吉見台遺跡B地点-市道Ⅰ-32号線(吉見工区)埋蔵文化財調査委託-』	船印旛郡市文化財センター
白井久美子他	2002	『千葉市鷺谷津遺跡-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-』	
相京邦彦	1984	『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-鷺谷津遺跡・観音塚遺跡・山ノ神遺跡・大 森第一遺跡・荒立遺跡-』	船千葉県文化財センター
白石久美子他	2004	『千葉市観音塚遺跡・地藏山遺跡(3)-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査 報告書Ⅳ-』	
相京邦彦	1983	『観音塚遺跡』『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』	船千葉県文化財センター

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈿帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
61	千葉	宮崎第1遺跡	円面硯1			
62	千葉	大北遺跡	須恵器円面硯1 畿内産土師器(杯AⅠ34・杯AⅢ16・杯B2・杯C21・盤25・蓋13・高盤17) 転用硯(須恵器壺2)		緑釉高台付耳皿1	
63	千葉	西屋敷遺跡	畿内産土師器杯A 1			
64	千葉	大森第1遺跡			土師器高台付耳皿1	
65	千葉	大森第2遺跡			鉄針1	
66	千葉	仁戸名遺跡		丸柄(石製)2		
67	千葉	榎作遺跡	転用硯(須恵器杯1)	丸柄(青銅製)1		
68	千葉	種ヶ谷津遺跡	畿内産土師器(皿A 1・高盤1)		奈良三彩小壺7・蓋3 銅製垂飾品1・儀鏡1・鈴1 鉄製儀鏡2	「千葉□□」
69	千葉	大道遺跡		鉸具(金銅製)1	土師器置カマド1 須恵器小型平板1	
70	千葉	有吉遺跡	円面硯1 須恵器風字硯1 転用硯(須恵器杯2・皿1・壺2・土師器杯2)	巡方(石製)1		「千衛」
71	千葉	高沢遺跡		巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)3		「厨」
72	千葉	有吉南遺跡		巡方(石製)1		
73	千葉	椎名崎遺跡	転用硯(須恵器高台付杯1)			「布厨」
74	千葉	伯父名台遺跡		丸柄(銅製)1		
75	千葉	椎名崎古墳群(C支群)		巡方(銅製)4 丸柄(銅製)2 鉈尾(鉄製)1		
76	千葉	ムコアラク遺跡		鉈尾(青銅製)1 丸柄(石製)1		
77	千葉	清水作遺跡	須恵器高盤2 土師器高盤1	巡方(銅製)1		
78	千葉	宇津志野遺跡	須恵器円面硯1		須恵器羽釜片4	
79	千葉	芳賀輪遺跡	須恵器高盤3 土師器高盤1 転用硯(須恵器杯1・土師器杯2)	巡方(青銅製)1	鉄製鏡1 土師器置カマド 奈良三彩小壺	「厨」「殿原」
80	印旛	木下別所庵寺跡	畿内産土師器(高盤1・杯1) 転用硯(須恵器杯1)			
81	印旛	胸形北遺跡	畿内産土師器杯5片			
82	印旛	宮内遺跡	須恵器高盤1	巡方(銅製)1 丸柄(銅製)1 鉈尾(銅製)1 鉸具(銅製)1	銅製鏡1	
83	印旛	鳴神山遺跡	土師器円面硯1 須恵器風字硯1 須恵器高盤3 土師器高盤2 転用硯(須恵器杯2・高台付杯2・壺片3・土師器高台付杯1)	巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)1	二彩小壺1 小型平板(灰釉陶器水滴)1	
84	印旛	島田込ノ内遺跡		巡方(青銅製)1		
85	印旛	岩戸広台遺跡A地区		丸柄(青銅製)1		
86	印旛	権現後遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器壺1)	巡方(青銅製)2 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)3 丸柄(石製)1		
87	印旛	北海道遺跡	土師器高盤1	巡方(青銅製)1 丸柄(青銅製)1 鉈尾(青銅製)1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
池田大助他	1986	「大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－」	助千葉県文化財センター
矢戸三男 谷 旬他	1979	「千葉市西屋敷遺跡」	助千葉県文化財センター
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
古内 茂他	1973	「京葉－京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－」	助千葉県都市公社
小澤清男	1995	「千葉市仁戸名遺跡－平成4・5年度調査報告書－」	助千葉市文化財調査協会
小林清隆	1992	「千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－」	助千葉県文化財センター
立和名明美	1998	「種々谷津遺跡」[主要地方道生実・本納線埋蔵文化財発掘調査報告書2－笹目沢遺跡・種々谷津遺跡・大道遺跡－]	助千葉県文化財センター
白石久美子他	1985	「千葉市種々谷津遺跡－県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	
白石 浩他	1983	「千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書」	助千葉県文化財センター
栗本佳弘 種田斉吾 阪田正一他	1975	「千葉東南部ニュータウン3－有吉遺跡(第1次)－」	助千葉県都市公社
佐久間 豊 関口達彦 倉内節子他	1990	「千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－」	助千葉県文化財センター
古内 茂 栗田則久 大野康男他	1983	「千葉東南部ニュータウン14－バクチ穴遺跡・有吉遺跡(3次)・有吉南遺跡－」	助千葉県文化財センター
栗本佳弘 上村淳一	1979	「千葉東南部ニュータウン6－椎名崎遺跡－」	助千葉県文化財センター
関口達彦 西野雅人	2004	「千葉東南部ニュータウン30－千葉市伯父名台遺跡－」	助千葉県文化財センター
関口達彦他	2005	「千葉東南部ニュータウン33－千葉市椎名崎古墳群C支群－」	助千葉県文化財センター
田坂 浩 白井久美子他	1979	「千葉東南部ニュータウン8－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－」	助千葉県文化財センター
秋元健一他	1986	「清水作遺跡」[坂戸遺跡]	佐倉市坂戸遺跡調査会
渡邊高弘	1992	「千葉市宇津志野窯跡確認調査報告書」	千葉県教育委員会
青沼道文	1976	「千葉市芳賀輪遺跡－第1次発掘調査概報－」[千葉市文化財報告第1集]	千葉市教育委員会
菊池健一	1992	「千葉市芳賀輪遺跡－平成2年度調査報告書－」	
小澤清男	1994	「千葉市芳賀輪遺跡－平成4年度調査報告書－」	助千葉市文化財調査協会
倉田義広	1998	「千葉市芳賀輪遺跡－平成8年度調査報告書－」	
佐藤順一	1987	「芳賀輪遺跡・太田アラク遺跡」	
青沼道文	1983	「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」[千葉史学]第2号	千葉歴史学会
青沼道文	1998	「第3章下総 109 芳賀輪遺跡」[千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)]県史シリーズ11	千葉県
比田井克仁他	1979	「木下別所廃寺跡第二次発掘調査概報」	千葉県教育委員会
印旛郡市文化 財センター	1993	「千葉県印旛郡印西市駒形北遺跡発掘調査報告書－印西町立小林小学校運動場拡張に伴う埋蔵文化財調査－」	助印旛郡市文化財センター
内田理彦他	1995	「宮内遺跡発掘調査報告書－本埜村総合運動場建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助印旛郡市文化財センター
鳴田浩司 田形孝一	1999	「鳴神山遺跡」[千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－]	助千葉県文化財センター
藤 淳一	1998	「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」	助千葉県文化財センター
斉藤 毅 宮内勝巳他	1988	「岩戸広台遺跡A地区」[印旛村岩戸広台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書]	助印旛郡市文化財センター
阪田正一他	1984	「八千代市権現後遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－」	助千葉県文化財センター
大野康男	1994	「北海道遺跡第1地点」[八千代市権現遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－]	助千葉県文化財センター
阪田正一他	1985	「八千代市北海道遺跡」	

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
88	印旛	井戸向遺跡	土師器高盤1 転用硯(須恵器蓋2・杯3・高台付杯3・ 甕1・土師器杯1・高台付杯1)	丸柄(青銅製)1 鉈尾(銅製)1 鉈具(青銅製)1 巡方(石製)1	奈良三彩小壺2・托1	
89	印旛	白幡前遺跡	須恵器風字硯1 須恵器高盤3 転用硯(須恵器蓋5・高台付杯2・甕7、 ロクロ土師器高台付皿1・高台付杯1)	巡方(銅製)1 鉈具(青銅製)1 巡方(鉄製)2 鉈具(鉄製)2 丸柄1	土師器置きカマド2 土師器羽釜2 奈良三彩小壺1 灰軸陶器高台付耳皿1	「厨」
90	印旛	名主山遺跡		巡方(青銅製)1		
91	印旛	村上込の内遺跡	土師器高盤1	巡方(青銅製)3 鉈尾(青銅製)1 丸柄(石製)1		
92	印旛	飯合作遺跡		鉈具(青銅製)1		
93	印旛	白井台大名宿遺跡	須恵器高盤1			
94	印旛	江原台遺跡	須恵器円面硯1 須恵器高盤2		須恵器羽釜1 青銅製鈴1 金銅製鈴1	
95	印旛	北大堀遺跡	転用硯(須恵器蓋1)	巡方(銅製)1		「門」
96	印旛	長勝寺脇館跡	須恵器高盤2 転用硯(須恵器高台付杯1)	巡方(鉄製)1		
97	印旛	本佐倉外宿遺跡	転用硯(須恵器蓋1・土師器高台付碗1)	丸柄(銅製)1		
98	印旛	北押出し遺跡		丸柄(青銅製)1 巡方(鉄製)1		「大殿」
99	印旛	高岡大山遺跡	土師器円面硯1 土師質風字硯2 須恵器高盤3	巡方(青銅製)4 丸柄(青銅製)3 鉈具(鉄製)2 丸柄(石製)1 鉈尾(青銅製)1 巡方(鉄製)1 巡方(銅製)2 巡方(石製)2	土師器耳皿1 水滴1 土師器羽釜2 土師器置きカマド2	「厨」「曹」2「関」「関カ」 5「門守」
100	印旛	六崎大崎台遺跡		丸柄(青銅製)4 鉈尾(青銅製)1 巡方(銅製)1 丸柄(銅製)1 鉈具(鉄製)1		
101	印旛	木野子大山遺跡	畿内産土師器(杯1・杯破片6) 転用硯(須恵器蓋1)			
102	印旛	尾上藤木遺跡C地区	須恵器高盤1			
103	印旛	尾上出戸遺跡		鉈具(鉄製)2		
104	印旛	墨木戸遺跡		丸柄(銅製)1		
105	印旛	墨新山遺跡	須恵器高盤1 転用硯(須恵器甕1カ・土師器杯2カ)	鉈具(鉄製)1		
106	印旛	新地遺跡第1地点		巡方(銅製)1		
107	印旛	下勝田台畑遺跡		鉈具(青銅製)1		
108	印旛	宮本遺跡		鉈尾(青銅製)1 鉈具(鉄製)2		
109	印旛	宮本宮後遺跡B地区	須恵器高盤1	巡方(銅製)1	鉄製小札カ1	
110	印旛	六拾部遺跡		巡方(青銅製)2 鉈尾(青銅製)1		
111	印旛	南広遺跡	転用硯(須恵器甕片1)	丸柄(青銅製)1 鉈具(鉄製)1		
112	印旛	腰巻遺跡				「厨」「門」
113	印旛	立山遺跡	須恵器高盤1			
114	印旛	岩富漆谷津遺跡		丸柄(青銅製)1	灰軸陶器高台付耳皿1	
115	印旛	内田端山越窯跡	須恵器高盤1		須恵器香炉破片8	
116	印旛	平賀細町遺跡		鉈尾(青銅製)1		
117	印旛	油作第2遺跡		丸柄(石製)1		「曹司」「厨」2
118	印旛	台方下平1遺跡	畿内系ハケ目甕1・破片1	巡方(金銅製)1 鉈尾(銅製)1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
藤岡孝司他	1987	『八千代市井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－』	(財)千葉県文化財センター
大野康男	1994	『井戸向遺跡』『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－』	
大野康男	1991	『八千代市白幡前遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－』	(財)千葉県文化財センター
平野元三郎他	1971	『名主山遺跡－村上団地第1期工事区域内調査－』	八千代市教育委員会
天野 努他	1974	『八千代市村上遺跡群』	(財)千葉県都市公社
沼沢 豊他	1978	『佐倉市飯合作遺跡』	(財)千葉県文化財センター
喜多圭介	1995	『臼井台大名宿遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
高橋健一	1979	『江原台』	佐倉市教育委員会
高田 博	1977	『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ－第1次・第2次調査－』	(財)千葉県文化財センター
山田友治 高田 博他	1980	『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	
西山太郎 斉藤 毅 篠原 正	1985	『北大堀・猿楽場遺跡発掘調査報告書－酒々井町道北大堀・猿楽場線埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
木内達彦	1990	『千葉県印旛郡酒々井町長勝寺脇跡』	(財)印旛郡市文化財センター
阿部寿彦	1996	『千葉県印旛郡酒々井町本佐倉外宿遺跡－おかじま電器酒々井店舗建設予定地内埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
村田一男他	1984	『千葉県酒々井町北押し遺跡調査報告書』	酒々井町教育委員会
印旛郡市文化財センター	1993	『高岡大山遺跡(1)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅱ』 『高岡大山遺跡(2)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅲ』 『高岡大山遺跡(3)』『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅳ』	(財)印旛郡市文化財センター
柿沼修平	1986	『大崎台遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	佐倉市大崎台B地区遺跡調査会
宮 文子	1992	『千葉県佐倉市木野子大山遺跡発掘調査報告書』	(財)印旛郡市文化財センター
木内達彦 長内美知枝	1990	『千葉県印旛郡酒々井町尾上藤木遺跡C地区発掘調査報告書』	(財)印旛郡市文化財センター
菊地敏記	1991	『千葉県印旛郡酒々井町尾上出戸遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
中山俊之	1995	『千葉県印旛郡酒々井町墨木戸－(仮)すかいらく－酒々井工場建設予定地内埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
小倉和重 小谷龍司 進藤泰浩	1997	『千葉県印旛郡酒々井町墨新山遺跡－ホソヤミート調理食品工場造成地内埋蔵文化財調査報告書－』	(財)印旛郡市文化財センター
日暮冬樹	1995	『千葉県八街市新地遺跡第1地点－八街市榎戸地区市道拡幅予定地内埋蔵文化財調査報告書－』	(財)印旛郡市文化財センター
榎原弘二	1997	『佐倉市下勝田台畑遺跡－印旛沼流域下水道埋蔵文化財調査報告書－』	(財)千葉県文化財センター
栗本佳弘他	1970	『東関東自動車道(千葉－成田線)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』	千葉県文化財保護協会
飯島伸一	2001	『宮本宮後遺跡B地区(第2次)－汚泥再生処理センター建設事業に伴う埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター
金丸 誠 四柳 隆	1994	『佐倉市六拾部遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ－』	(財)千葉県文化財センター
金丸 誠	1993	『佐倉市南広遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅹ－』	(財)千葉県文化財センター
石倉亮治	1987	『佐倉市腰巻遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』	(財)千葉県文化財センター
金丸 誠	1983	『佐倉市立山遺跡』	(財)千葉県文化財センター
岩富漆谷津遺跡発掘調査団・太田宿遺跡発掘調査団	1983	『岩富漆谷津・太田宿』	佐倉市教育委員会
渋谷健司	2002	『内田端山越窯跡』	(財)印旛郡市文化財センター
郷堀英司	1996	『印旛村平賀細町遺跡』	(財)印旛郡市文化財センター
村山好文他	1985	『油作第2遺跡』『平賀』	平賀遺跡発掘調査会
松田富美子	2005	『千葉県成田市台方下平Ⅰ遺跡・台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－』	(財)印旛郡市文化財センター

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈎帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
119	印旛	台方下平Ⅱ遺跡	畿内産土師器(杯2・盤1・高盤1・破片17・畿内系ハケ目甕2・破片1) 転用硯(土師器高台付杯1)	巡方(銅製)1 鉸具(銅製)2	土師器置きカマド1 鉄製小札1	「厨」
120	印旛	大袋小谷津遺跡	須恵器円面硯9 須恵器高盤3	鈍尾(青銅製)1		「門殿」「驛カ」
121	印旛	宗吾西鷲山遺跡		鈍尾(青銅製)1		
122	印旛	飯仲金堀遺跡	須恵器高盤1		奈良三彩托1	
123	印旛	大袋山王第2遺跡B地区	畿内産土師器(蓋1・杯2(14点破片を含む)) 須恵器高盤1	鈍尾(青銅製)2		
124	印旛	飯田町南向野遺跡	須恵器高盤1			
125	印旛	大袋腰巻遺跡	畿内産土師器(蓋1・盤1) 須恵器高盤4 転用硯(須恵器高台付杯2・甕16・壺3)	巡方(青銅製)1 丸柄(青銅製)3 鈍尾(青銅製)1 巡方(鉄製)1		「印波郡」 「ツ牟郷」(刻書) 「印波」
126	埴生	山口遺跡 (公津原Loc.20)	須恵器高盤1	丸柄(青銅製)1 鈍尾(青銅製)1		「成厨厨厨」
127	埴生	加良部遺跡 (公津原Loc.15)		鈍尾(青銅製)1		
128	埴生	開護台遺跡群	須恵器円面硯1 畿内産土師器(杯5・皿3・鉢3) 土師器高盤1	巡方(銅製)3 丸柄(銅製)4 鈍尾(銅製)2 鉸具(銅製)3 鉸具(鉄製)3	鉄製小札5 須恵器平瓶1	「厨」
129	埴生	中台遺跡 (公津原Loc.14)	畿内産土師器杯1	鈍尾(青銅製)4		
130	埴生	南開護台遺跡(第1地点)	土師器高盤1			「使生」
131	埴生	新山Ⅰ(Loc.1)遺跡	須恵器高盤1		双耳杯1	
132	埴生	川栗館跡	転用硯(須恵器杯1)	丸柄(青銅製)2		
133	埴生	川栗波佐間遺跡	須恵器高盤1			
134	埴生	久能下谷津遺跡	土師質二面平頭風字硯1			
135	埴生	久能小仲台遺跡		巡方(石製)2 丸柄(石製)3		
136	埴生	向台遺跡	須恵器円面硯5 風字硯1 畿内産土師器(杯A3・杯B1・蓋2・高盤1・杯(破片)1) 須恵器高盤1		唐三彩陶枕1	「厨カ」
137	埴生	龍角寺五斗葺瓦窯跡	須恵器円面硯1			
138	埴生	大畑Ⅰ遺跡	須恵器円面硯3 畿内産土師器(杯A2・杯破片2) 須恵器高盤1 土師器高杯1		青銅製鈴3	「厨」2
139	埴生	竜角寺ニュータウンNo4 地点		鉸具(青銅製)1		
140	埴生	大竹林畑遺跡		丸柄(銅製)1 鉸具(鉄製)1		
141	埴生	南羽鳥正福寺遺跡第2地点	須恵器高盤1			
142	埴生	烏内遺跡		丸柄(石製)1		
143	埴生	野毛平木戸下遺跡	土師器高盤2	巡方(石製)1 鉸具(鉄製)3	青銅製海獣葡萄鏡1 土師器置きカマド1	
144	埴生	野毛平植出遺跡		巡方(石製)1		
145	埴生	野毛平向山遺跡	須恵器高盤1			
146	埴生	円妙寺遺跡		鉸具(青銅製)1		
147	埴生	馬場扇作遺跡	須恵器高盤1	鉸具(鉄製)1		
148	埴生	江地山遺跡	須恵器高盤3			

著者名	発行年	書籍名	発行機関
松田富美子	2005	「千葉県成田市台方下平Ⅰ遺跡・台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
部 淳一 酒井弘志他	1994	「大袋小谷津遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
折原洋一他	1986	「千葉県成田市宗吾西鷲山遺跡発掘調査報告書」	成田市教育委員会 宗吾西鷲山遺跡調査会
部 淳一 酒井弘志他	1994	「飯仲金堀遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
川津和久 寺内博之 宮 文子	1995	「大袋山王第2遺跡B地区」[「公津東遺跡群Ⅱ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
部 淳一 酒井弘志他	1994	「飯田町南向野遺跡」[「公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記 小牧美知枝	1988	「大袋腰巻遺跡(第11次)－成田市飯田町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
宮 文子他	1998	「公津東遺跡群Ⅲ－大袋腰巻遺跡－」	財印旛郡市文化財センター
天野 努	1981	「Loc.20」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
天野 努	1981	「Loc.15」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
大木英行 寺内博之 木川邦夫	1990	「成田市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	成田市教育委員会
天野 努	1981	「Loc.14」[「公津原Ⅱ」]	財千葉県文化財センター
阿部寿彦	1996	「千葉県成田市南園護台遺跡(第1地点)－(仮)スターツ株式会社宅地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
玉口時雄	1975	「Loc. 1」[「公津原」]	財千葉県地域振興公社
高橋 誠 栗原教司 渋谷健司	2001	「川栗館跡」[「川栗遺跡群Ⅱ－ドゥ・スポーツカントリー成田ゴルフ場造成予定地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)－川栗館跡－」]	財印旛郡市文化財センター
喜多裕明	2001	「川栗波佐間遺跡」[「川栗遺跡群Ⅲ－ドゥ・スポーツカントリー成田ゴルフ場造成予定地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記他	1988	「久能下谷津遺跡」[「久能遺跡群発掘調査報告書」]	財印旛郡市文化財センター
菊地敏記他	1988	「久能小仲台遺跡」[「久能遺跡群発掘調査報告書」]	財印旛郡市文化財センター
石田広美他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	財千葉県文化財センター
石戸啓夫 小牧美知江	1997	「千葉県印旛郡栄町龍角寺五斗蒔瓦窯跡－栄町病院建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
大野康男	1986	「栄町殖生郡衙跡確認調査報告書」	千葉県教育委員会
大野康男	1987	「栄町殖生郡衙跡確認調査報告書Ⅱ」	千葉県文化財保護協会
石井広美他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書」	財千葉県文化財センター
小林清隆他	1985	「栄町大畑Ⅰ－2遺跡－県単道路成田安食線埋蔵文化財調査報告書－」	財千葉県文化財センター
米田幸雄 小牧美知枝	1994	「千葉県印旛郡栄町大畑Ⅰ－3遺跡－栄町ガソリンスタンド建設予定地内埋蔵文化財調査報告書－」	財印旛郡市文化財センター
越川敏夫他	1982	「竜角寺ニュータウン遺跡群」	竜角寺ニュータウン遺跡調査会
中山俊之 石戸啓夫	1997	「大竹林畑遺跡」	財印旛郡市文化財センター
宇田敦司	1996	「千葉県成田市南羽鳥遺跡群Ⅰ－成田カントリークラブゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)－」	財印旛郡市文化財センター
小林清隆他	1985	「主要地方道成田安食線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－成田市烏内遺跡－」	財千葉県文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上遺跡」	財印旛郡市文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上遺跡」	財印旛郡市文化財センター
喜田圭介	1990	「ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平樋出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上遺跡」	財印旛郡市文化財センター
矢野紀子他	1985	「東関東自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－成田地区－」	財千葉県文化財センター
阿部寿彦	1998	「千葉県成田市馬場扇作遺跡－東京電力安食線増強(Ⅱ期)工事に伴う埋蔵文化財調査－」	財印旛郡市文化財センター
寺内博之他	1994	「江地山遺跡」[「荒磯 千葉県成田市荒磯地域の調査」]	成田市荒磯地域学術調査会

No	郡名	遺跡名	硯・畿内産土師器・高盤	鈔帯金具	特殊遺物等	官衙関連墨書等
149	埴生	一鉄田甚兵衛山北遺跡	畿内産土師器杯 1			
150	香取	大首向台遺跡	須恵器高盤 1			
151	香取	青山富ノ木遺跡	土師質二面風字硯 1 転用硯(須恵器甕 1)			
152	香取	名木庵寺跡	転用硯(須恵器椀 2)			「曹」
153	香取	玉造上の台遺跡		巡方(石製) 1		
154	香取	仁井宿東遺跡	須恵器円面硯 1 須恵器高盤 1 転用硯(須恵器杯 4)			
155	香取	津宮遺跡群		巡方(石製) 1	ロクロ土師器耳皿 1・高台付耳皿 1 土師器置きカマド 2	
156	香取	長部山遺跡				「厨」「官」2
157	香取	吉原遺跡	転用硯(灰袖陶器椀 2)	巡方(銅製) 1		
158	香取	妙見堂遺跡	土師器高盤 2		奈良三彩小壺 1 人形鉄製品 1 置きカマド 5 羽釜 2	
159	匝瑳	俣田遺跡No 1・2 地点	転用硯(須恵器甕 1)			「匝厨」
160	匝瑳	北の内遺跡	畿内産土師器杯A 1			
161	匝瑳	多古台遺跡群	転用硯(須恵器高台付杯 1)	巡方(銅製) 3 丸柄(銅製) 1 鉈尾(銅製) 1 鉈具(銅製) 1		
162	匝瑳	中内原遺跡	須恵器高盤 1 土師器高盤 1			
163	匝瑳	南借当遺跡		鉈尾(金属製) 1		
164	匝瑳	城山遺跡	転用硯(須恵器盤 1・甕13)	鉈尾(銅製) 1		
165	匝瑳	神山谷遺跡	須恵器高盤 1 土師器高盤 1 転用硯(須恵器甕29)	鉈尾(青銅製) 1 丸柄(石製) 1		
166	匝瑳	池尻遺跡	須恵器高盤 1 転用硯(土師器高台付杯 1)			
167	匝瑳	妙名遺跡	土師器高盤 1			「厨」
168	匝瑳	柳台遺跡	須恵器高盤 2 土師器高盤 4 転用硯(須恵器壺 1)	巡方(金銅製) 1 鉈具(青銅製) 1 鉈具(鉄製) 1 丸柄(石製) 1		「守」「序」「千俣口」「千校厨」
169	匝瑳	雉子ノ台遺跡	畿内産土師器(盤 1・蓋 1) 須恵器高盤 1			
170	匝瑳	真々塚遺跡	土師器高盤 1			
171	匝瑳	生尾遺跡	須恵器高盤 1 転用硯(須恵器蓋 1・皿カ 1・甕カ 1)	巡方(銅製) 1 鉈尾(銅製) 1		
172	匝瑳	平台遺跡	須恵器円面硯 1			
173	匝瑳	飯倉鈴歌遺跡	畿内産土師器(杯 3・破片14)		奈良三彩小壺 1	
174	匝瑳	平木遺跡				「郡厨」2「口厨」「磨」「玉長」
175	海上	境原遺跡	転用硯(須恵器高台付盤(朱墨) 1)	丸柄(銅製) 2 鉈尾(銅製) 1	須恵器双耳杯 1	
176	海上	地々免遺跡	畿内産土師器盤 1 須恵器高盤 1			
177	海上	御座ノ内遺跡	須恵器高盤 1			
178	海上	古屋敷遺跡	転用硯(須恵器蓋 1・甕 1)	巡方(金銅製) 1		「山幡」「曹司」「千俣」
179	海上	岩井安町遺跡	転用硯(灰袖高台付杯 1・須恵器甕 2・土師器杯 1)			「厨」
180	海上	大宮戸大新田遺跡第 1 地点	転用硯(土師器高台付杯 1)	鉈尾(石製) 1		

著者名	発行年	書籍名	発行機関
小久貫隆史他	1995	「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ－一鉄田甚兵衛山北遺跡(空港No11遺跡)－」	助千葉県文化財センター
伊庭彰一 平岡和夫	1989	「千葉県下総町大菅向台遺跡－発掘調査報告書－」	下総町遺跡調査会
雨宮隆太郎 宮 重行	1999	「下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－」	助千葉県文化財センター
沼沢 豊	1983	「下総町名木庵寺跡確認調査報告」	千葉県教育委員会
原田亨二	1983	「〔速報〕千葉県佐原市玉造上の台遺跡の調査」『月刊 考古学ジャーナル』No.222	ニューサイエンス社
宮 重行他	1990	「佐原市仁井宿東遺跡・牧野谷中田遺跡－中小河川改良事業小野川放水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助千葉県文化財センター
黒沢哲郎他	2004	「津宮遺跡群」	助香取郡市文化財センター
江尻和正	1991	「千葉県佐原市長部山遺跡」	助香取郡市文化財センター
鬼沢昭夫 越川敏夫他	2002	「千葉県佐原市吉原遺跡」	助香取郡市文化財センター
中野修秀 處 毅	1989	「千葉県香取郡小見川町織幡地区遺跡群発掘調査報告書」	小見川町埋蔵文化財調査会
平野 功 平井真紀子	1994	「織幡妙見堂遺跡Ⅱ」	助香取郡市文化財センター
越川敏夫	1993	「大塚遺跡群俣田遺跡－俣田遺跡No.1・No.2・No.3地点糸山遺跡－」	助香取郡市文化財センター
村山好文	2000	「中内原遺跡・北の内遺跡」	助香取郡市文化財センター
黒沢哲郎	1999	「多古台遺跡群Ⅰ－No.1, 2, 4～7地点の調査」	助香取郡市文化財センター
黒沢哲郎他	2002	「多古台遺跡群Ⅱ－No.3地点の調査－」	助香取郡市文化財センター
村山好文	2000	「中内原遺跡・北の内遺跡」	助香取郡市文化財センター
麻生正信他	1991	「多古町南借当遺跡－県単橋架架換(借当橋)事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－」	助千葉県文化財センター
道澤 明	2000	「千葉県匝瑳郡光町篠木城跡・城山遺跡－ひかり工業団地内埋蔵文化財調査報告Ⅱ－」	助東総文化財センター
岸本雅人 宮内勝巳 本多昭宏	2002	「千葉県匝瑳郡光町神山谷遺跡(1)－ひかり工業団地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－」	助東総文化財センター
本多昭宏	2002	「千葉県匝瑳郡光町神山谷遺跡(2)－ひかり工業団地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－」	助東総文化財センター
安井健一 嶋田浩司	1996	「主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2 干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡」	助千葉県文化財センター
渋谷興平	1976	「妙名遺跡」	北総東部用水事業埋蔵文化財発掘調査団
菊地敏記 福岡 元 山口直人	1986	「第1章 柳台遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅲ分冊	八日市場市教育委員会
三枝利明 永嶋正春 福岡 元	1986	「第2章 柳台遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅳ分冊	八日市場市教育委員会
桜井茂隆 高木博彦	1980	「八日市場市出土の「千校尉」と記された墨書土器について」『史館』第12号	史館同人
浅野雅則 福岡 元	1986	「第2章 雉子ノ古墳群」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』第Ⅱ分冊	八日市場市教育委員会
菊地敏記 福岡 元 山口直人	1986	「第2章 真々塚遺跡」『千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書』	八日市場市教育委員会
實川 理他	1995	「千葉県八日市場市生尾遺跡－配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査－」	助東総文化財センター
宮内勝巳	2001	「千葉県八日市場市平台遺跡－ツーカーセラー東京八日市場市中央局建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助東総文化財センター
並木忠良 林 勝則 藤崎宏道	1992	「千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書」	飯倉遺跡調査会
小久貫隆史	1988	「八日市場市平木遺跡－県立海臣地区(仮称)養護学校建設に伴う埋蔵文化財調査－」	助千葉県文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「境原遺跡」	助香取郡市文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「地々免遺跡(遺物編)」	助香取郡市文化財センター
奥田正彦	1992	「御座ノ内遺跡」	助香取郡市文化財センター
村山好文 鬼澤昭夫	1999	「古屋敷遺跡」	助香取郡市文化財センター
宮城孝之他	1994	「海上町岩井安町遺跡－海上キャンプ場改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助千葉県文化財センター
赤塚弘美他	1995	「千葉県海上郡海上町岩井安町遺跡－滝のさと自然公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」	助東総文化財センター
藤原 均	1988	「千葉県銚子市大宮戸大新田第1地点調査報告書」	銚子市教育委員会

IV 郡衙成立の歴史的背景と意義 - 調査された郡衙を中心に -

各郡の概要で示したように、郡衙が出現してくる背景には、古墳時代後期からの古墳や集落の動向が大きな鍵を握っている。ここでは、調査された郡衙が所在する郡を中心に、成立の背景を探ってみる。

山中氏は、評衙や郡衙がどのような歴史的・地理的環境の中で成立したかを検討し、郡域における5～7世紀頃の古墳や集落跡、7・8世紀創建の寺院跡の分布との位置関係から、在地有力氏族の本拠地に営まれた「本拠地型郡衙」遺跡と、その本拠地から離れたところに位置する「非本拠地型郡衙」遺跡とに大別した¹⁾。本拠地型はさらに、郡域の代表者としての位置を占め、域内の他地区より相対的に大型の古墳が集中する地区に立地するA類と、郡域内の代表的氏族としての地位を必ずしも伝統的に保持していたのではなく、他地区の有力氏族との競合関係にあったと考えられるB類に分けている。現在までに、千葉県内で郡衙と特定できる遺跡は、相馬郡衙である日秀西遺跡、埴生衙である大畑遺跡と武射郡衙である嶋戸東遺跡の3遺跡である。そこで、各遺跡周辺の古墳の動向をまとめてみよう。

日秀西遺跡は、国造制下の印波国に属し、手賀沼北岸に位置する。古墳時代前期の古墳としては、柏市戸張一番割遺跡の前方後方墳及び沼南町北ノ作1・2号墳（前方後方墳）があげられる。中期になると、東葛飾郡最大の前方後円墳である天神山古墳が地域の盟主的な存在として築造され、石枕や短甲を有する円墳である金塚古墳や柏市天神台古墳群へと引き継がれていく。この時期までは柏市戸張地区から我孫子市我孫子地区の手賀沼西岸に中心が認められる。この様相は、後期になると大きく変わり、手賀沼周辺に小規模な古墳群が点在し、地域全体を掌握するような勢力はみられなくなる。日秀西遺跡は、古墳時代前期からの中心的な地域である手賀沼西岸地域ではなく、小規模古墳が存在する北東岸の湖北地区に立地している。

一方、大畑遺跡も印波国に属するが、日秀西遺跡周辺とは大きく異なる。印波国の中でも大規模古墳群が、印旛沼東岸の公津原古墳群と北側の竜角寺古墳群にみられる。この範囲は、律令制下の埴生郡のほぼ全域と印旛郡の一部にまたがる。この両古墳群の中で勢力の変遷が伺われる。まず、前期から中期にかけては、竜角寺古墳群ではほとんどみられず、公津原古墳群に中心がある。公津原古墳群は、4世紀前半から築造が開始され、6世紀代に大型の古墳が集中する。6世紀初頭には、墳丘長86mの前方後円墳である天王・船塚古墳群1号墳が築造され、次に墳丘長63mの天王・船塚古墳群31号墳などの大型前方後円墳がみられる。6世紀後半から7世紀にかけても古墳の築造がみられるが、それまでの大型古墳ではなく中小規模の円墳や方墳が主体となる。その一方で、前・中期の古墳がない竜角寺古墳群では、6世紀後半以降印旛沼を望む台地縁辺に中小規模の前方後円墳を含む古墳群が形成されるようになる。そして、埴輪が伴わなくなる7世紀以降は台地の奥部に進出し、全長78mの前方後円墳である浅間山古墳や1辺79mの大型方墳である岩屋古墳などが築造され、公津原古墳群を圧倒的に凌駕するようになる。このようにみえてみると、印波国の中心が6世紀末から7世紀にかけて公津地域から竜角寺地域に移っていったことが想定される。その勢力地域に初期寺院の龍角寺や埴生郡衙が成立する。

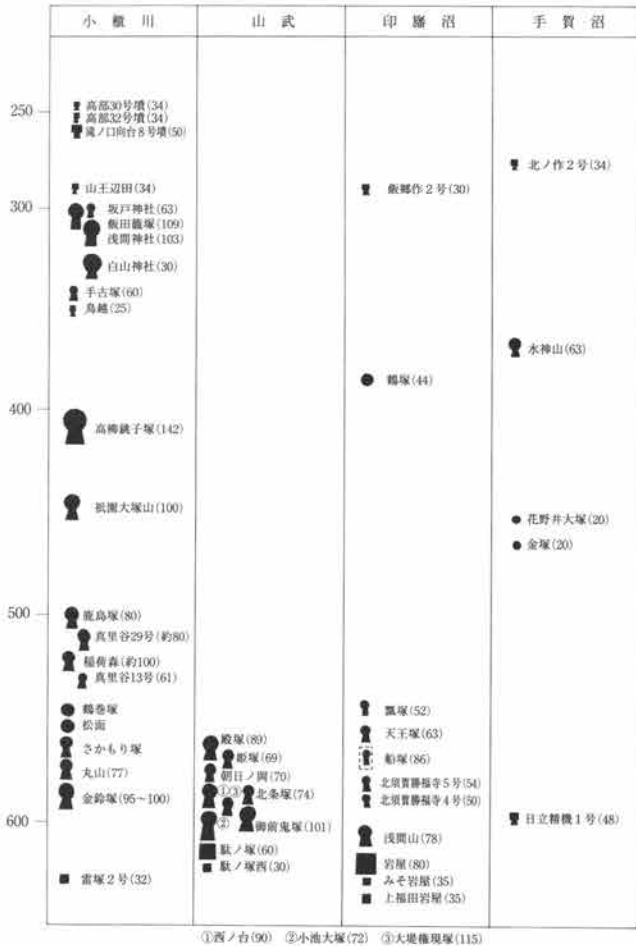
また、嶋戸東遺跡周辺も大畑遺跡周辺と類似した様相が伺われる。古墳時代前期に遡る大型古墳はなく、小規模な円墳である嶋戸境1号墳が見られる程度である。以降も有力な古墳は認められないが、この様相が一変するのが6世紀後半である。国造制下の武社国に属し、北から木戸川・境川・作田川の3河川流域に大型古墳が築造されるようになる。木戸川流域では、中流域に全長89mの殿塚古墳が最初に築かれ、

その後全長59mの姫塚古墳、全長72mの小池大塚古墳が順次短期間に営まれる。下流域では全長76mの朝日ノ岡古墳からやや時期を空けて7世紀初め頃に武社国中最大の前方後円墳である大堤権現塚古墳が築造される。その南側の境川流域では、中流域に6世紀後半から径45m前後の円墳である経僧塚古墳、カブト塚古墳が存在し、上流域に6世紀末から7世紀初頭の築造とされる全長86mの胡摩手台16号墳がみられる。嶋戸東遺跡はこの流域に当たるが、その位置は大型古墳が認められる中・上流域ではなく、下流域に営まれる。さらに南側の作田川流域では、下流域の板附古墳群中に集中し、全長90mの西ノ台古墳、全長63mの不動塚古墳が6世紀後半から末にかけて築かれ、7世紀初頭頃に1辺60mを測る駄ノ塚古墳が出現する。

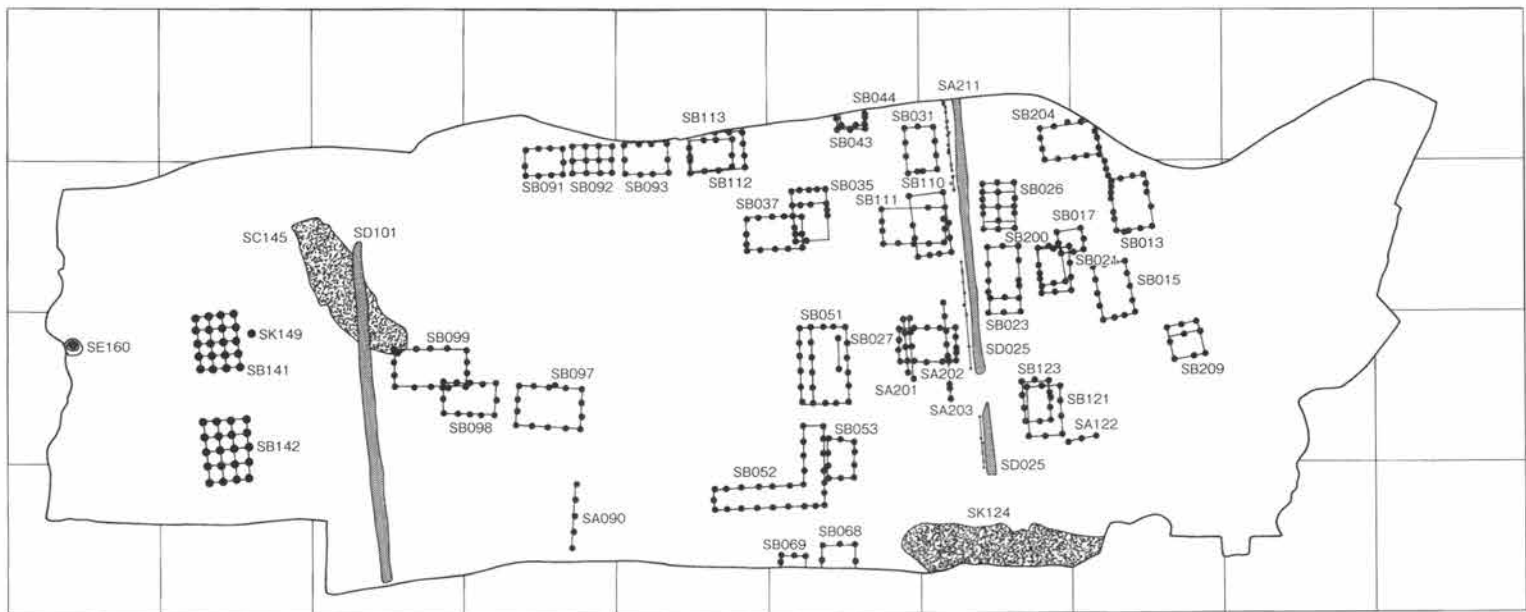
各郡の概要では触れていないが、評価あるいは郡衙に関連する何らかの施設と思われる木更津市丹過遺跡は、国造制下の馬来田国に属する。この国は、東京湾に注ぎ込む小櫃

川流域一帯を領域としており、この流域にも古墳が濃密に分布する。中流域には、小櫃古墳群中に、4世紀代とされる飯籠塚古墳、浅間神社古墳、白山神社古墳の全長100m級の前方後円墳が順次築造されるが、中期以降の大型古墳は見られず、中小規模の古墳を含む古墳群が展開している。一方、下流域の河口部では、大型前方後円墳を含む祇園・長須賀古墳群が広がっている。5世紀代には、石製模造品を副葬した高柳鉄子塚(142m)、金銅製眉庇付冑や画文帯鏡などを出土した祇園大塚山古墳(100m)、6世紀代には稲荷森古墳(約100m)、銅鈴や銅鏡、金銅製や銀製の刀装具などを出土した丸山古墳(77m)、金鈴や金銅製飾履・承盤付銅鏡などの豪華な多量の副葬品が確認された金鈴塚古墳(95~100m)などが連綿と築かれ、7世紀代には大型古墳がみられなくなる。この状況からは、前期までは中流域に拠点があり、中期以降は河口部に中心が移っていく様子が伺われる。丹過遺跡は前期古墳が立地する小櫃古墳群より5kmほど下流に位置し、河口の祇園・長須賀古墳群より10kmほど上流に当たる。この周辺には有力な古墳は認められず、古墳時代後期からの有力な古墳が所在する地域とは異なる場所に営まれている。

このように、郡衙として想定される遺跡周辺の古墳のあり方をまとめてみると、確実に本拠地型A類と捉えられるのが埴生郡衙である。7世紀後半から末頃になって公津原地域から竜角寺地域に中心が移り、さらに、竜角寺古墳群の立地が、印旛沼岸から内部に入った場所に移動し、そこで終末期の大型前方後円墳である浅間山古墳や大型方墳である岩屋古墳などが連綿と築かれている場所に竜角寺と埴生郡衙が営まれる。一方、非本拠地型として想定できそうな遺跡が日秀西遺跡である。水神山古墳に代表される手賀沼



第36図 流域別主要古墳変遷図

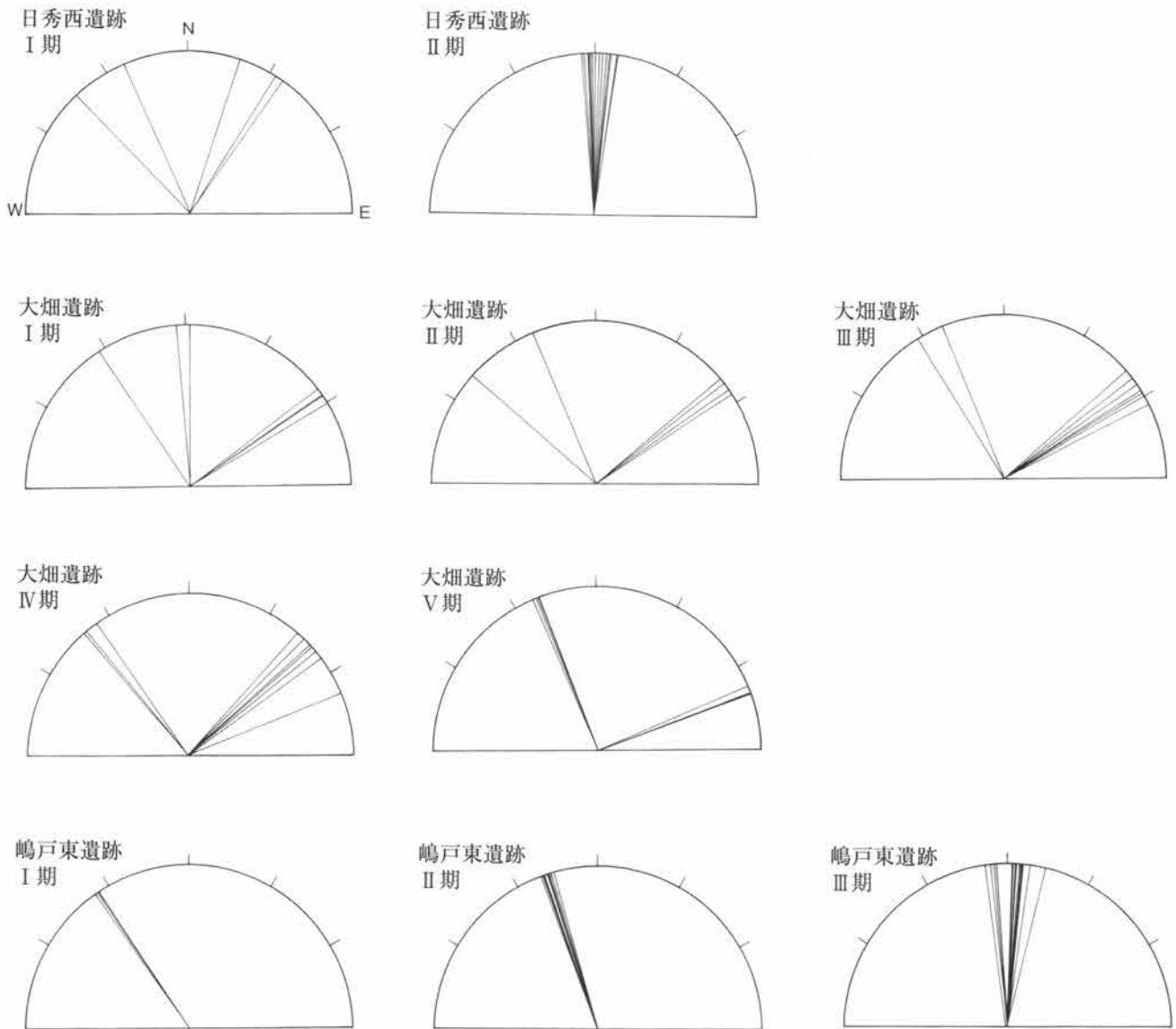


第37図 丹過遺跡建物全体図

を掌握するような中期までの拠点となる古墳群とは離れた場所に相馬郡衙が設けられる。ただ、湖北地区から新木地区にかけては手賀沼の開発によって削平された台地縁辺部にある程度の規模の古墳があった可能性もあり、断定できない²⁾。終末期の竜角寺古墳群とは比較にならないほどの小規模な古墳であり、本拠地としてではなく、中小規模の在地勢力をまとめ上げるような場所に郡衙を設定したのであろう。概念としては、非本拠地型に属すると思われる。丹過遺跡周辺に畔蒜郡衙が所在するのであれば、この地域も非本拠地型となろう。

問題は、武射郡衙が所在する武社国地域の古墳のあり方である。これについては、先学により様々な解釈がなされている。ここで詳細に検討はしないが、極めて短期間に3河川の流域に盟主的な規模の古墳が築造されている。最終的に築造されるのが、木戸川下流域の全長115mを測る大型前方後円墳である大堤権現塚古墳と作田川下流域の1辺60mを測る大型方墳である駄ノ塚古墳である。境川流域を含めた3河川を掌握した勢力は、時期ごとに河川を移動する首長権の交代制ではなく、相互の競合的關係で国を維持していたものと思われる。そして、埴生郡の岩屋古墳と龍角寺の關係からすれば、駄ノ塚古墳と真行寺廢寺(武射寺)の關係も想定される。駄ノ塚古墳とは、境川を挟んだ対岸の台地上に真行寺廢寺が建立され、武射郡衙も営まれる。そこには、駄ノ塚古墳を意識しつつも各流域全体のバランスをとるうえで絶好の場所であった境川下流域を選定したのであろう。交通の要所としても重要である。嶋戸東遺跡のなかで触れたように、太平洋岸から砂提帯を挟んで武射郡衙を通り、内陸に向かうと想定される官道の一部が調査されており、この道路が古墳時代まで遡るかどうかは不明であるが、水上交通と陸路を結ぶ重要な位置にあったことは間違いない。山中氏による本拠地型B類の範疇に入るものであろう。

山中氏は、郡衙成立過程における3つの画期として、①7世紀中葉、②7世紀末ないし8世紀初め頃、③8世紀前葉をあげ、①は評衙の前身である初期評衙と考えられる官衙施設が出現する時期、②は多くの郡衙遺跡において官衙施設が創設される時期、③は大宝令の施行によって名実ともに郡衙が体制的に整



第38図 各遺跡建物主軸方位分布図

備、確立された8世紀前葉を指標としている。この点から県内の郡衙と考えられる3遺跡について考えてみよう。まず、①とした7世紀中葉の初期評衙とされる施設は確認されていない。②に関しては、日秀西遺跡の初期建物群や嶋戸東遺跡の前期政庁とされる建物群は7世紀末頃に建てられたとされる。大畑遺跡では、2間×3間の小規模な建物で構成される第1期がこの段階に当たっている。この遺跡では、第2期（8世紀第1四半期）とした建物群が軸をそろえ、大型の建物が含まれるなど、この段階になって官衙的な様相を有するようになり、日秀西遺跡や嶋戸東遺跡よりはやや遅れて整備されたものと考えられる。県内で調査された郡衙遺跡の開始時期は②の段階になってからである。

一方、③の画期も重要である。3遺跡の時期別主軸方向をみると明らかなように、8世紀前葉という時期は、日秀西遺跡においては、軸を東西南北に揃えた掘立柱建物の倉庫群が成立し、嶋戸東遺跡では、後期郡衙が前期とは軸を変えて営まれるようになった時期である。まさに本格的に整備された郡衙施設が確立してくる。ちなみに、8世紀中葉から後半にかけて両遺跡とも倉庫群は掘立柱建物から礎石建物に改築される。

このように、飛鳥浄御原令の施行段階を中心とした②の時期に上記の各郡衙が成立し、③の時期に本格的に整備されたことが伺える。また、山中氏は、交通の要衝に位置していることを特徴としてあげている。この点についてみてみよう。まず、相馬郡衙については、先述したように意部郷に設置されていたとすると、下津谷氏が考察している点が注目される³⁾。同氏は、遺跡の分布から於賦駅を日秀西遺跡周辺に想定している。意布郷戸籍には、軍団の役職名を示す人物の記載があり、藤原部を改姓した「久須波良部」の墨書土器が新木地区に集中して出土していることを考え合わせると、相馬軍も湖北地区から新木地区にかけた地域に設置されていたものと思われる。於賦駅も日秀西遺跡周辺に想定することが妥当と思われる。於賦駅は、下総国から常陸国に渡る交通の要衝に位置していることは間違いのないであろう。また、埴生郡衙である大畑遺跡も古東海道の山方駅から荒海駅にいたる官道沿いに設置されている。荒海駅も、於賦駅同様常陸国にいたる最後の駅となる。この両遺跡は、常陸国南部から下総国北部にかけて広がっていた内水面である「香取の海」の沿岸に位置しており、古墳のあり方からしても古代より水上交通の要衝であったと考えられ、その場所に駅及び郡衙が設置されたのであろう。

一方、武射郡衙は古代官道が確認されていない太平洋岸に位置している。これについては、6世紀後半から大型の前方後円墳が集中して築造されている状況から、海上交通及び河川を使った水上交通によって新たに開発・入植した地域として検討した⁴⁾。おそらく、この時代から中央にとって東国経営の重要な拠点として九十九里沿岸を選地し、大規模な開発を進めていったのであろう。旧佐倉街道は、江戸時代の絵図面から嶋戸東遺跡の正倉域を斜めに抜けて伸びており、九十九里の平野部まで達していたと推定されている。この道路は久保谷遺跡で検出された道路跡と平行し、嶋戸東遺跡の前期政庁と考えられる軸方向とも共通していることから、少なくとも7世紀後半まで遡ることは確実である。

このようにみても、房総における郡衙は水上交通及び海上交通の要衝にあった場所に設置されたことが伺える。調査された郡衙遺跡の古墳時代からの様相を加えてみると、上総地域も含めて古墳時代からの中央政権との深いつながりが伺われる。特に、武射郡衙周辺の古墳の特徴からは、東国経営及び東北経営の拠点として位置づけ、その性格がそのまま武射郡衙成立の大きな要因となったことが想定される。ただ、調査された郡衙もまだ解明されていない部分もあり、他の郡衙の調査の進展などにより、房総の郡衙あるいは官衙のさらなる研究がなされることを期待する。

註

- 1 山中敏史 1994 「古代地方官衙遺跡の研究」 塙書房
- 2 辻 史郎 2005 「下総国相馬郡正倉をめぐり一考察」『古代東国の考古学』（大金宣亮氏追悼記念論文集）
- 3 下津谷達男・古宮隆信 1988 「下総の古東海道」『東葛上代文化の研究』
- 4 栗田則久・木島桂子 2005 「古代の上総北東部－古墳時代後期からの集落と古墳の動向－」『研究紀要24－30周年記念論集－』

財団法人千葉県文化財センター

第7表 遺跡一覧表

凡 例

- 1 本表で取り扱った遺跡は、郡衙のみではなく、官衙的な遺構や遺物を検出した遺跡であり、具体的な性格については触れていない。下総の主要な遺跡については、Ⅲの「下総地域の官衙関連遺物について」で一覧表として扱っているため、本表では空白としている。
- 2 表の各項目については、以下のとおりである。
 - (1) Noについては、県の分布地図の番号を附した。
 - (2) 地図については、(1)同様分布地図を踏襲し、国土地理院発行の25,000分の1の地図名及び番号を記した。
 - (3) 国郡の所在については、千葉県立中央図書館が1970年に発行した『千葉県地名変遷総覧』に主に準拠している。
 - (4) 所在地については、市町村合併前の旧住所を使用している。
 - (5) 時期については、遺跡内の古墳時代から平安時代までの遺構・遺物の時期を示している。
 - (6) 当該時期については、官衙関連遺物・遺構等の存続時期を示している。
 - (7) 性格については、ある程度推定可能な遺跡について触れた。

第7表 遺跡一覽表

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
19	No73保田 No78那古	安房	平群	大峰畑遺跡	安房郡 富山町	高崎字奥田495他	段丘上	40m	岩井川		8c末～9c	集落跡	2
70	No82千倉	安房	安房	安房国分寺跡	館山市	国分959-2他	砂丘台地	19m	平久里川		8c末～9c	寺院跡	
102	No81館山	安房	安房	加賀名遺跡	館山市	波佐間字加賀名下	海岸段丘	11～2m	波佐間		8c後半～10c初	関連遺物出土	4
82	No79安房 古川	安房	安房	宝珠院	安房郡 三芳村	府中字宝珠院	平久里川左 岸河岸段丘 上	13～16m	平久里川			集落跡・ 安房国府 推定地	
2	No73保田	安房		恩田原遺跡	安房郡 富山町	久枝57-4	段丘	10m	岩井川			関連遺物 出土	
5	No82千倉	安房	朝夷	健田遺跡群	千倉町	瀬戸字堀ノ内278 ～279他	海成段丘上	23～30m	瀬戸川		奈良・平安		1次5軒、 2次5軒
468	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野下田遺跡 (海上郡衙推 定地)	市原市	西野下田299-1	自然堤防微 高地		養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	1 (7c代)
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡第2次 (海上郡衙推 定地)	市原市	小折字小折3-3	自然堤防微 高地	7.5～8.5m	養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡第1次 (海上郡衙推 定地)	市原市	西野字東口	沖積低地	8.0～10.0m	養老川		奈良・平安	海上郡衙 推定地	
463	No51姉崎	上総	海上	西野遺跡群 西野遺跡(海上 郡衙推定地)	市原市	西野字南口192-1 他	右岸段丘上	8.34～ 10.59m	養老川	古墳～奈 良・平安	奈良・平安	海上郡衙 推定地	4 (古墳時 代)
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第5次)	市原市	郡本1丁目153他	台地(市原 台地)	20m	養老川 (新田川)			市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第4次)	市原市	郡本3丁目201-1	舌状台地	21～22m	養老川			上総国府 推定地・ 市原郡衙 推定地	2
793	No46五井 No47蘇我		海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡(第2次)	市原市	郡本3丁目202-1	台地	22m	養老川			上総国府 推定地・ 市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	郡本遺跡群 (上総国府推 定地1)郡本 遺跡	市原市	郡本4丁目103番地 他	台地上	21m	養老川			市原郡衙 推定地	
793	No46五井 No47蘇我	上総	海上	古甲遺跡(郡 本遺跡群)	市原市	郡本2丁目350-2 他(平3)346(平4)						上総国府 推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群 (村上遺跡) 上総国府推 定地	市原市	村上字蔵の下1584 他	右岸河岸段 丘上		養老川		奈良・平安	上総国府 推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群 (村上川堀遺 跡)上総国府 推定地	市原市	村上字川堀1628- 1	自然堤防上	8.0～9.0m	養老川		8c後半～9c 前半		
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群上 総国府推定地	市原市	村上1126-1(年 元)1159-1(年2)			養老川			上総国府 推定地	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
	水汲み場・欄状遺構	銅製丸軻(水汲み場)			安房国府推定地である三芳村府中は当遺跡の南東約8kmにあり富山町米沢字大折は平群郡衙推定地となる。	1998富津館山道路埋蔵文化財調査報告書
	基壇建物跡	石帯(1)溝三彩 獸脚基壇建物				1980安房国分寺
				帯金具(蛇紋岩)	奈良・平安時代の集落。竪穴住居から帯金具を出土した。	1999加賀名遺跡
					1987年古代寺院跡の確認調査により弥生時代の集落・包含層・墳丘を欠失した古墳2基(1基は5c)を確認。10c代の遺物は少量出土したが当該期である8・9c代の遺物は皆無に等しい。	1988古代寺院(宝珠院)確認調査報告書
				銅印「王泉私印」	調査区内の遺物包含層から出土、該期の遺構・遺物は検出していない。	1998恩田原遺跡
					平城宮跡出土木簡に養老6年(722)、養老13年(729)と記載された時期と前後する竪穴住居が検出された。	1975健田遺跡発掘調査報告書1977健田遺跡1980健田遺跡発掘調査概報第4次調査
	大溝ピット群(掘立柱の可能性が高いが不明)(確認)				出土遺物は、遺構に確実に伴うものが少なく年代をおさえることが困難であるが、7c前半に集中するよう検出した遺構の時期もこの時期であろう(確認)西野遺跡の一部であるとは考えられるが海上郡家の一部であることは今後の検討を要する(本調査)	1996平成7年度市原市内遺跡発掘調査報告書2000市原市文化財センター年報(平成9年度)西野下田遺跡
5棟	柱穴97基(掘立柱建物5棟含む)井戸1基8c前半～9c後半(8c代が主体)溝状遺構1条		軒丸瓦単升 二十四葉蓮華文平瓦格子・繩叩き		本遺跡が郡衙に比定される端緒となった大字小折字小折の地のはじめての調査。縁辺部ということもあり郡衙に関する遺構は検出されなかった。検出した井戸はその構造から館あるいは館に付属する厨に伴う井戸と考えられる。	1996平成8年度市原市西野遺跡第二次発掘調査報告書
1・掘立柱1					奈良・平安時代の遺構は掘立柱建物1と掘立柱1である掘立柱建物跡(SB-5001)は3間×2間の総柱高床構造と考えられる。海上郡衙推定地大字小折に隣接する。	1995市原市西野遺跡第一次発掘調査報告書
8棟	井戸6基(うち1基は横板材がのこり8c後半～9cに廃絶)溝30条(東西溝SD1002が郡衙に関連した区画溝)土壌8基				検出した東西溝SD1002が郡衙に関連した区画溝であると考えられる。	1989市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘報告書
	溝状遺構(東西)				郡本遺跡(1次)に隣接した地点、東西にはしる溝状遺構を検出する。	1999郡本遺跡(第5次)市原市内遺跡発掘調査報告
3(2間×3間)うち2棟は規模・軸線が類似	竪穴状遺構2		布目瓦	灰軸陶器長頸壺2	市原郡衙推定地、第9号竪穴住居から灰軸陶器長頸壺2点のほか墨書土器5点布目瓦が出土したほか掘立柱3棟を検出した。墨書土器のうち則天文字「天」は特殊な文字で県内では官衙関連施設などから出土している(江原台第1・真行寺庵寺・和洋学園国府台キャンパス内遺跡2次など)	1999市原市郡本遺跡(第4次)
2棟					市原郡衙推定地と確定できる資料は得られていないが2棟の掘立柱建物跡や奈良・平安時代の竪穴住居跡、墓塚などを検出し、当遺跡の特殊性・重要性は強まった。	1995市原市郡本遺跡(第2次)
				金、銅製帯金具	直接官衙に関連する遺構は検出されなかったが墨書・線刻土器や金・銅製帯金具の出土は注目される。	1987市原市郡本遺跡
	平4年度溝(幅8m、深さ2m)		有	緑釉・灰釉・磚・獸脚	平成3年の調査では竪穴住居や掘立柱建物の柱穴であろうピットが多く検出されたが調査区が狭く今後の面的調査が期待される。遺物は表面採集資料も含め平安時代の所産と思われるものが多い。平成4年の調査では東西地割りの方向に沿う形で溝が検出された全体的な形状を把握する。	1984市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)
8c第424棟 9c初11棟9c前半12棟	溝SD20(9c代)SD102(9c後半)土坑方形周溝状遺構		平瓦・丸瓦	青銅製帯金具(鈍尾)	多数の掘立柱建物跡検出し交通の要衝である養老川に深くかかわって成立した遺跡と考えられる国府とかかわる「津」のような性格ではなかったかと想定できるが遺構の性格を決定できるような遺物は出土しなかった。	1997村上遺跡群埋蔵文化財調査報告書
奈良・平安4(うち1棟は8c中葉)	土坑(8c末～9c初)土器棄て場1他3井戸状遺構2溝2	石帯(滑石製、丸軻)	布目(一部へら削り、ヘラナデによるスリ消し)、繩叩き平瓦		8c～9c前半の掘立柱4棟が検出されうち1棟は8c中葉に属する。また8c末～9c初めの土器を大量に廃棄したとみられる土坑から石製丸軻が出土した。	2000市原市村上川堀遺跡
					国府に直接結びつくとも積極的に主張しうる成果はなかった。	1984市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群(村上城跡)上総国府推定地Ⅱ	市原市	村上字白山他	自然堤防上、微高地		養老川	中世		上総国府推定地	
465	No51姉崎	上総	海上	村上遺跡群上総国府推定地	市原市	村上1402-15	自然堤防上		養老川			上総国府推定地	
651-1	No52海士有木	上総	海上	文作遺跡	市原市	葉木字文作325他	台地上	62~67m	村田川(神崎川)	古墳後期~平安	7c後半~8c	掘立、関連遺物、集落跡	147
729	No46五井No51姉崎	上総	海上	坊作遺跡	市原市	国分寺台中央4丁目6他	台地		白旗川			集落跡、生産跡	
734	No47蘇我	上総	海上	稲荷台遺跡	市原市	山田橋3丁目1	台地上		白旗川			官衙・道路跡	B14 C4 D1 いずれも国分跡
769	No52海士有木	上総	海上	山田橋遺跡群山田橋表通遺跡	市原市	山田橋字笹森堀、太田	台地上	32~34m	白旗川			道路跡	
771	No47蘇我No52海士有木	上総	海上	古代道路遺跡	市原市	山田橋シウノ谷~藤井3丁目	台地上		新田川			道路跡	
774・775	No47蘇我No52海士有木	上総	海上	千草山廃寺(774)千草山遺跡(775)	市原市	能満字西千草山1450-2	台地(市原台)	15~65m	新田川		8c後半	上総国府関係遺跡・寺院跡、集落跡、生産跡	72+52
471	No51姉崎No52海士有木	上総	海上	二日市場廃寺跡	市原市	二日市場字熊野越551他	微高地	15m	養老川		7c後半~8c後半	寺院・居宅または寺院付属施設	
626	No52海士有木		海上	南青野遺跡	市原市	山倉1487(山倉字青野、北貝塚)	台地上	42~46m	養老川、白旗川		奈良	官衙関連?集落跡	10
542	No52海士有木	上総	海上	門脇遺跡	市原市	磯ヶ谷字門脇8他(字入道久保)	台地上(養老川中へ下流の右岸)	70~72m	養老川・新堀川		8c第1四半期		9(7c後半以降)
778・779	No52海士有木	上総	海上	上細工多遺跡(官衙推定地)	市原市	能満字上新開	台地	20m	新田川		平安前・中	官衙推定地	1(奈良)
137	No57上総横田	上総	海上	永吉台遺跡群	君津郡袖ヶ浦町	字永吉西寺原ノ式169	支流松川の左岸台地	63m~75m	小櫃川・松川	8c~10c	9c	関連遺物出土・集落跡・生産跡	121・12・51
64	No56木更津	上総	畔森	大畑台遺跡(大畑台遺跡群)	木更津市		台地上	60m	矢那川	古墳~平安	奈良・平安		6棟(I) 3棟(II)
70	No56木更津	上総	畔森	小谷遺跡(大畑台遺跡群)	木更津市		台地	50m	鳥田川	古墳中期~平安	8c末~9c初	集落跡・寺院跡	3

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
					上総国府推定地に比定される地域の調査であったがそれに関する資料は検出されていない。	1986村上城跡
					「村上説」を裏付ける資料はなかった。	1985上総国府推定地「市原市文化財センター年報(昭和57・58年度)」
35				帯金具(カコ)9c前半羽口9c後半灰釉手付瓶(9c後半)手鎌鉄滓、銅滓(9後半~10c)	古墳時代終末期~平安時代中頃9c末(一部10c代)まで継続する集落跡である。35棟の掘立柱建物跡はⅡb・Ⅲ期(7cⅣ期~8cⅢ期)を中心とし地点的な集中と規則的な配置が認められる。	1989市原市文作遺跡
		灰釉陶器、奈良三彩小壺	軒平瓦、平瓦、丸瓦			1995上総の造寺司「市原市文化財センター研究紀要Ⅲ」1977上総国分寺台発掘調査概要Ⅳ
E地点20棟以上?B・A地点にも	G地点道路跡(297号と平行する市道山田橋~五井線の道路下に検出した溝と平行、幅6m側溝が両側にある。	帯金具、円面硯	布目	緑釉・灰釉		1980上総国分寺台発掘調査概報1983.3
2棟	溝状遺構18条(道路跡含む)					1999山田橋表通遺跡
	側溝付き道路				稲荷台遺跡G地点、山田橋表通遺跡、能満千草山遺跡(東千草山)、山田橋支ノ海道遺跡、山田橋大山台遺跡 推津坂ノ上(県史)	1992発掘された市原付近の古代道「古代交通研究」1994古代上総国の嶋穴駅と官道「市原市文化財研究会紀要第1輯」
	うち1軒小鍛冶遺構		布目瓦(24菱単弁蓮華文鏡瓦・均整唐草文字瓦)	神功開宝・灰釉陶器		1995謎の千草山廃寺跡(予察)1979千草山遺跡発掘調査報告書1989千草山遺跡・東千草山遺跡
3棟	溝(4条)整地土層		軒丸瓦(雷文緑複弁八葉蓮花文、単弁八葉蓮花文)軒平瓦(重弧文、唐草文)	鉄滓	調査以前に花(雷)文緑八葉複弁蓮華文軒丸瓦(紀寺式)、三重圓文緑十二葉単弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦を出土、特に紀寺式の軒丸瓦は県内において初見となった資料で白鳳期の寺院として位置づけられるにいった。	1984市原市二日市場廃寺跡確認調査報告
1	土坑26基・ピット群6・井戸状遺構1・溝8条			銅製帯金具(丸柄)	検出した竪穴住居跡・掘立柱建物跡は奈良時代のもともみられ溝内から帯金具(丸柄)が出土した。	1994市原市南青野遺跡
1(時期・規模不明)					縄文時代~奈良・平安時代の遺構・遺物を検出した。この中で奈良時代のSI005号跡から出土した須恵器高台付杯の底部、外面に「海黒長」の三文字の墨書がある。可能性の高い行政区画としては上総国市原郡海部郷が考えられる。	1985市原市門脇遺跡
2棟、1棟(溝跡とかかわる)開口部に伴う	溝4条(区画溝)				南辺区画溝の内側から掘立柱建物2棟が検出され、宿直屋的な開口部に付属する施設と推定される。国衙付属の細工所ないしは細工人の給免田の遺跡地名ともみられ、検討材料の一つとなろう。大規模な溝、出入口に関連する施設、日常遺物の少なさから一般の集落ではないと思われる。	能満上細工多遺跡・能満上新関遺跡・能満番面台遺跡・能満旧三山塚
8・17	竪穴状遺構2・2溝状遺構30・5・1土器焼成遺構43基・17・10道路遺構1・1土坑44基・7土器一括遺構1基火葬墓1	石製丸柄6・青銅巡方(9c後)61・石製巡方87・陶印106		灰釉・緑釉	西寺原地区は9c~10cの集落で土器生産を行っていた「西寺」・「佛」という墨書のはか丸柄・巡方・陶印なども出土している。(寺原地区は8c後半カラ10cの寺院・集落跡であった。)	1985永吉台遺跡群
10棟(2×2・1棟3×4・1棟2×3・3棟3×3以上・2棟2×2以上・1棟他・1棟)					8c前半の竪穴住居跡3棟が検出されており、掘立柱建物跡は8c後半~9c前半と考えられているが、遺物が少なく不明瞭である。なお、掘立柱建物他に存在する可能性が指摘されている。また、掘立柱建物群の北東(H6調査区、Iで報告)では該期の竪穴住居跡6棟が検出	1996大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 1997大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ
8棟(1×1・1棟2×4ベタ・1棟2×2・1棟2×3・3棟3×4・2棟)	基壇(小谷遺跡)1		軒瓦(丸・平)小型(小谷遺跡)	瓦塔(小谷)、灯明杯	小谷遺跡からは瓦塔をはじめ仏教関連遺物が出土したSB-4の北東側谷頭から瓦塔出土	1994大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書1996大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 1997大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 1998大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 2000大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・堅穴住居跡
459	No50奈良輪	上総	望陀	雷塚遺跡	袖ヶ浦市	神納字雷塚4136-2 (藏波字雷塚)	台地	22~37m	小櫃川・藏波川	8c~9c		集落・関連遺物出土	
435	No57上総横田	上総	望陀	念仏塚遺跡	袖ヶ浦町	岩井字念仏塚他	支流松川の北岸台地	31m	小櫃川		9c後~10c前半平安	関連遺物出土・集落跡	4
101	No50奈良輪No51姉崎No56木更津No57上総横田	上総	望陀	境遺跡 (根形台遺跡群) (下新田遺跡群)	君津郡袖ヶ浦町	下新田1270	台地	30m	小櫃川	古墳(後)~平安	9c中	関連遺物出土・集落跡	12
302	No57上総横田	上総	望陀	桶爪遺跡	君津郡袖ヶ浦町	川原井字桶爪	台地	70m	小櫃川 (松川)	平安	平安	関連遺物出土	
101	No50奈良輪No51姉崎No56木更津No57上総横田	上総	望陀	西ノ窪遺跡・根形台遺跡群 (下新田遺跡群)	君津郡袖ヶ浦町	下新田1133	台地	27~30m	小櫃川		8c~9c	関連遺物出土・集落跡	14
475	No62鹿野山	上総	周准	南子安金井崎遺跡	君津市	南子安金井崎	丘陵上(分)		小糸川			九十九坊廃寺関連	
47	No62鹿野山	上総	周准	九十九坊廃寺	君津市	糞輪191	台地		小糸川		奈良	郡衙関連・寺院跡	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅲ	君津市	外箕輪字中入153-1他	河岸段丘第3面	16m	小糸川	奈良・平安		条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅱ	君津市	外箕輪字四反目	段丘上	16m	小糸川	奈良・平安		条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡Ⅰ	君津市	外箕輪字御灵前91-1	低位段丘上	16m	小糸川			条里	
421	No62鹿野山	上総	周准	外箕輪遺跡	君津市	外箕輪字新屋敷	低位河岸段丘上	16m	小糸川	8c後半		官衙または関連施設	SK 1~5
40	No62鹿野山	上総	周准	郡条里遺跡	君津市	八幡字郡・常代	低位段丘上	15m	小糸川			周准郡衙推定地	
90・91	No62鹿野山	上総	周准	郡西遺跡・郡遺跡	君津市	郡字赤磯、小山野字福造	河岸段丘上		江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地・集落跡	
		上総	周准	郡遺跡			河岸段丘上	13~23m	江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地	
		上総	周准	郡遺跡	君津市	郡381-1	沖積低地	13m	江川 (小糸川支流)			周准郡衙推定地	
89	No62鹿野山	上総	周准	常代遺跡	君津市	常代字五反歩	低地段丘	15~17m	小糸川			集落跡	
79	No48東金	上総	山辺	滝木浦遺跡	東金市	滝木浦、坊谷、油井字庄子台	台地	62~66m	北幸谷川	古墳後期~奈良・平安	8世紀~10世紀	郡衙関連	182軒(105)
119	No48東金	上総	山辺	山田水呑遺跡	東金市	大字山田水呑台、新田	台地	65~70m	北幸谷川	8世紀前半~9世紀後半	8世紀前半~9世紀後半	山辺郡山口郷推定地	143軒
148	No48東金	上総	山辺	鉢ヶ谷遺跡	東金市	小野字鉢ヶ谷、岡谷、湖山、十石	台地	約77m	北幸谷川	古墳後半~奈良・平安		郡衙関連	354軒
83	No48東金	上総	山辺	滝東台遺跡	東金市	滝字木浦他	台地	約58m	北幸谷川	古墳後半~奈良・平安	8世紀前半~9世紀後半	郡衙関連	(218軒)

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
		製鉄関連 (小鍛冶か)		「神功開寶」、灰釉陶器墓誌または貝地券と思われる板状鉄製品(火葬墓)		1998雷塚遺跡
		丸軋 (石製) トレンチ出土				1987念仏塚遺跡
	溝 (奈良時代)	銅製蛇尾 (44号, 9c中)			奈良時代の集落は隣接する西ノ窪遺跡を中心に展開し本遺跡は平安時代になって再び集落が出現する。そのうちの1軒から銅製蛇尾が出土した。南側台地「望陀郡衙推定地」が有り地方官人層の存在が考えられる。また同住居跡からは多数の墨書土器が出土している。	1985境遺跡
		石製巡方2 (住居跡No.2)			住居跡No.2から2点の巡方が出土した。その所持者は郷に關係する下層の官人ではないかと考えられる。	1979樋爪
		石製蛇尾2045号跡 n-18G(グリット) 竪穴住居9c中鉄製カコ1072号跡竪穴住居跡9c中				1985西ノ窪遺跡
		鉄鍛練鍛造の工房址			8c後半に建物群が出現し10c前半には取束していく。製鉄関連遺構は九十九坊関連と考えられる。	1996君津市南子安金井崎
			軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、男瓦	硯	掘立、塔跡、講堂、瓦敷基壇	1985君津市九十九坊廃寺址 確認調査報告書
					条里地割りと同方向の水田	1997外箕輪遺跡Ⅲ
	溝条里地割りの方向を意識したと思われる					1997外箕輪遺跡Ⅱ
					中世の領主層の居館に付属する施設か居館に隣接する上層名主の屋敷地としての性格	1994外箕輪遺跡発掘調査報告書
SB1~4SB1 2以上×2SB2 2以上×2SB3 3×2 SB4?×2	溝状遺構 (SD1~5、11、12、15、16)				大型掘立柱建物は計画的に配置されていると考えられ、これら掘立柱建物群にとり囲まれた地点に土坑群が集中的に検出される。フイゴ、羽口、スラグが多数出土していることから近接地点に鍛冶工房の存在が想定できる。溝状遺構も掘立柱建物群と同一の方向性をもっており互いに関連	1989君津市外箕輪遺構・八幡神社古墳
					郡衙推定地とされたが郡衙施設の発見はなかった。しかし須恵国造の居館であったと考えられ郡衙設置の墓地とはあったと言える。建物の変遷状況からは該期の遺構は調査区域外へ移っていると考えられる。	1996郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ
					検出した掘立柱建物跡群は古墳時代中期~後期と考えられるそれに伴う水に関わる祭祀・儀式も行われていたらしい。	1994郡遺跡群発掘調査報告書Ⅰ
	溝3条 水田6枚 畦畔6本				周准郡衙に関連する遺構・遺物は検出しなかった。	1991君津市郡遺跡発掘調査報告書
47棟	土坑100基 欄列4条 溝15条 道路跡1条	帯金具 (カコ・鉈尾)			掘立柱建物跡は10世紀と考えられている。同時期の竪穴住居は、遺構内では5群に分かれ、それぞれの群に掘立柱建物跡が数棟ずつ配置されている。	「千葉県東金市作畑遺跡発掘調査報告書」1986
52棟	土坑23基	青銅製帯金具 (鉈尾)			掘立柱建物跡は、4群4時期に分けられる。掘立柱建物と住居とを比べ、在地豪族(郷(里)長)の住居とそれに伴う家屋と推定している。また「山口館」「山辺大」等の墨書により、山辺郷に属すると考えられる。	「山田水呑遺跡」1977
234棟	土坑多数	帯金具 (巡方裏金具、鉈尾、丸軋裏金具) 帯飾 (丸軋)			掘立柱建物は住居と分布がほぼ一致し、時期は9世紀代と考えられる。また、住居のカマド方位と掘立柱建物の桁行、梁行方位がほぼ一致しているため、掘立柱建物を主体とした集落の時期があると考えられる。規模は、2間×2間、2間×3間、3間×3間、3間×4間が多いと思われるが、四面廻付建物もあり、寺院の可能性もある。	「小野山田遺跡群Ⅰ-鉢ヶ谷遺跡-」2000
159棟		帯金具 (巡方、カコ)	平瓦 (凸面正格子叩き目)、平瓦「凸面斜格子叩き目」		台地南側斜面際に掘立柱建物が集中していると考えられる。住居の分布より密集しているが、分布は重なっている。また、住居のカマド方位と掘立柱建物の桁行、梁行方位がほぼ同じであるため、住居から掘立柱建物跡を主体とした集落になったと思われる。	「油井古塚原遺跡群」1995

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
130	No53茂原	上総	山辺	砂田中台遺跡	白里町	砂田520他	台地	約95m	村田川	奈良・平安	8世紀中頃～10世紀前半	郡衙関連集落	135軒
3	No48東金	上総	山辺	金谷野A遺跡	白里町	金谷郷字金谷野3612-60他	台地上	75～83m	北幸谷川	古墳時代後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半）	郷家関連	29軒
234	No48東金	上総	山辺	道門坊遺跡	東金市	山田字道門坊684番地他	台地上	約79m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	20軒
7	No48東金	上総	山辺	一本松遺跡	大網白里町	小西字一本松800、餅ノ木字八幡台546-1他	台地上	約80m	北幸谷川、小野川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～10世紀前半）	郷家関連	198軒
8	No48東金	上総	山辺	升形遺跡	大網白里町	小西字升形766他	台地上	79～81m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉から）	郷家関連	69軒
東金136 大網白里5	No48東金	上総	山辺	新林（I II III IV）遺跡 北前野遺跡	東金市白里町	山田字新林中台金谷郷北前野3627他	台地	75～79m	北幸谷川、小野川	古墳、奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～10世紀）	郷家関連寺院？	112軒
11	No48東金	上総	山辺	猪ヶ崎遺跡	大網白里町	小西字猪ヶ崎985番地他	台地	78m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	147軒
6		上総	山辺	道門坊西遺跡 南前野遺跡	東金市大網白里町	道門坊金谷郷南前野3688-2他	台地	77～81m	北幸谷川、小野川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）		139軒
6	No48東金	上総	山辺	南前野遺跡	大網白里町	金谷郷字南前野前3688番地他	台地	77～81m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	25軒
10	No48東金	上総	山辺	小西平台遺跡	大網白里町	小西字平台904他	台地	78～80m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安時代	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	43軒
9	No48東金	上総	山辺	富山遺跡	大網白里町	小西字762番地他	台地	80～82m	北幸谷川	古墳後期～奈良・平安	VI～VII期（7世紀後葉～9世紀後半以降）	郷家関連	37軒
127	No48東金	上総	山辺	南麦台遺跡	大網白里町	萱野字南麦台778他	台地	90～96m	村田川	古墳時代後半～奈良・平安時代	7世紀前葉～10世紀前葉	郡衙関連	146軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名, 発行年)
104棟	土坑74基 溝7条 円形周溝状遺構1 基 鍛冶跡2基	帯金具、萬年通寶、 長年大寶		鍛造剥片、粒状滓、 灰釉浄瓶、灰釉碗、 灰釉皿	調査区南部の小支谷を望む地区に集中している。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が7棟、2間×2間が53棟(総柱3棟)、3間×2間が31棟、3間×3間が4棟(総柱2棟)、四面廂付(5間×4間)1棟、不明5棟である。四面廂付きは掘立柱建物跡の集中地区からやや西に離れている。墨書から山邊郡草野郷と推定され、郷家(衙)の可能性もある。	砂田中台遺跡(奈良平安時代篇)1994
60棟					堅穴住居と掘立柱建物は重なる時期に構築されていたと考えられる。掘立柱建物跡は1間×1間が6棟、2間×1間が9棟、2間×2間が2棟、2間×3間が14棟、3間×3間が9棟、4×2間が1棟である。大規模な建物はない。2間×2間、2間×3間が主体であるが、堅穴住居に比べて掘立柱建物跡が多い。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
5棟		帯金具(丸軋、巡方、鉈尾)		鈴、鍵穴金具板状品	掘立柱建物は2間×2間が2棟、2間×3間が3棟である。調査区中央やや北東寄りに集中している。H007住居跡から金属製品が集中して出土している。帯金具、鈴、鉄器が出土している。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
88棟	土坑、粘土探掘坑	帯金具(巡方、鉈尾)		分銅、銅碗、銅托	堅穴住居は調査区中央及び南部に集中している。掘立柱建物も同様である。掘立柱建物は1間×1間が2棟、2間×1間が3棟、2間×2間が26棟、3間×2間が48棟、3間×3間が3棟、4間×3間が1棟、不明が5棟である。また、3間×2間に四面廂のものが2棟あり、規模的には5間×4間の大きさになる。四面廂掘立柱建物は2棟とも南端部に位置し、寺院関連施設の可能性もある。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
25棟		帯金具(丸軋)	丸瓦、平瓦 (斜格子叩き目)		南北に長い調査区で、堅穴住居はほぼ全体に分布するが、特に北端部と中央部に集中している。掘立柱建物は、2間×2間が7棟、3間×3間が3棟、1間×1間が1棟、不明が1棟である。調査区の中央部及び南部に集中している。	大網山田台遺跡群Ⅱ1995
63棟	ロクロピット (H152内)		平瓦(斜格子叩き目)		奈良、平安の住居は調査区の中央部東側と南部に集中している。掘立柱建物跡も同様である。規模は1間×1間が2棟、2間×1間が7棟、2間×2間が23棟、3間×2間が22棟、3間×3間が1棟、4間×2間が1棟、4間×3間が2棟、7間×2間が1棟である。特に中央部東側には、四面廂の4間×3間を中心に、その前面に4間×2間、7間×2間などが配置され、村落内寺院を形成している。また、四面廂の4間×3間建物は2次期に分かれ、1期は掘立柱式、Ⅱ期は工事業である。	大網山田台遺跡群Ⅲ1996
238棟	道状遺構1箇所 (特殊遺構)土坑 溝状遺構柱穴1 状	帯金具(丸軋、巡方)	平瓦(鉄格子叩き目)		堅穴住居は調査区のはほぼ全域に分布しているが、南側斜面に近い地域に集中する傾向がある。掘立柱建物跡も同様の分布を示す。規模は2間×1間が15棟、2間×2間が68棟、3間×1間が1棟、3間×2間が101棟、3間×3間が32棟、4間×2間が3棟、4間×3間が3棟、4間×4間が1棟である。当該時期の堅穴住居よりも掘立柱建物の数が多いのが特徴である。総柱建物16棟有り、「郷倉」を構成すると考えられる。	大網山田台遺跡群Ⅲ1996
40棟	土坑 溝状遺構	帯金具(巡方)			堅穴住居は調査区の中央から南西部にかけて集中している。掘立柱建物もほぼ同様に分布している。規模は2間×2間が9棟、3間×2間が25棟、3間×3間が1棟、4間×3間が4棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
17棟		帯金具(鉈尾)			堅穴住居跡はⅥ期(7世紀後半から8世紀前半)が大半をしめる。掘立柱建物は調査区中央から南部にかけて分布している。規模は2間×2間が4棟、1間×1間が4棟、3間×2間が9棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
86棟	土坑、溝状遺構	帯金具(裏板、カゴ)			堅穴住居は調査区東部に分布し、掘立柱建物跡もほぼ同様に分布する。掘立柱建物の規模は1間×1間が2棟、2間×1間が13棟、2間×2間が25棟、3間×2間が39棟、3間×3間が7棟である。主軸方位が東西及び南北のものが多く、倉庫群を構成する可能性がある。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
4棟	土坑、溝状遺構				堅穴住居は調査区の東部に集中し、掘立柱建物も同様である。掘立柱建物の規模は、2間×1間が1棟、2間×2間が1棟、3間×2間が2棟である。	大網山田台遺跡群Ⅳ1997
149棟					B・D・F区で整然と並んだ掘立柱建物群が検出されている。全体で149棟有り、内訳は1間×1間が4棟、2間×1間が4棟、2間×2間が49棟(総柱4棟)、4間×3間が6棟、5間×3間が1棟、規模不明が1棟ある。	南麦台1994

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
152	No34多古	上総	武射	庄作遺跡	芝山町	小原子字庄作	台地	約42m	高谷川	古墳時代後期～奈良・平安	7世紀後半～10世紀代	郡衙関連	75軒
61	No34多古	上総	武射	谷窪・上乗遺跡	芝山町	小原子字谷窪332	台地	約42m	高谷川	古墳後期～奈良・平安	7世紀前半～10世紀代	郡衙関連	115軒
91	No43成東	上総	武射	栗焼棒遺跡	山武町	矢部字栗焼棒586他	台地	約50m	作田川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郡衙関連	13軒
74	No43成東	上総	武射	比良台遺跡	山武町	成東町寺崎字比良台3他	台地	約46m	境川	古墳後期～奈良・平安	9世紀代	郡衙関連遺跡	1軒
成東5 山武 231 松尾 97	No43成東	上総	武射	嶋戸東遺跡	成東町	嶋戸	台地	約49m	境川	古墳後期～奈良・平安	8世紀後半～9世紀後半	郡衙推定地	
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内町163-11ほか	台地	20m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	6軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内町2183ほか	台地	20m	長津川	奈良・平安～中世	奈良・平安	郷内集落	4軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3-425-2	台地	20m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	108軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内1丁目368番地	台地	16m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	8軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3丁目449-3	台地	18m	長津川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	18軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目332ほか	台地	19m	長津川	古墳～平安	奈良・平安	郷内集落	4軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目260	台地	17m	長津川	古墳後期～平安	奈良・平安	郷内集落	2軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内2丁目347-1ほか	台地	19m	長津川	古墳末～平安	奈良・平安	郷内集落	3軒 (9世紀)
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目108-1ほか	台地	16～18m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	59軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内1丁目349-1ほか	台地	18～19m	長津川	古墳後期～平安	奈良・平安	郷内集落	6軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船3丁目452-5ほか	台地	18m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	17軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目82-1	台地	17m	長津川	奈良・平安	奈良・平安	郷内集落	17軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	西船4丁目6-10	台地	17～18m	長津川	9世紀	9世紀	郷内集落	2軒
153	No30船橋	下総	葛飾郡	印内台遺跡	船橋市	印内3丁目208-1	台地	18～19m	長津川	平安	平安	郷内集落	2軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
11棟	欄列1条、溝状遺構5条			瓦塔片、人面墨書土器	墨書土器から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は、3間×3間が1棟、3間×2間が2棟、2間×2間が6棟、2間×1間が2棟である。	小原子遺跡群1990
7棟		帯金具(巡方)			墨書から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は3間×2間が3棟、3間×3間(片側2間)1棟、2間×2間の総柱1棟、3間×1間が1棟、2間×1間が1棟である。	小原子遺跡群1990
3棟	土坑3基 溝5条				1間×6間及び10間以上×3間(一部調査区外)の2棟大型掘立柱建物跡が検出され、直線的な2条の溝(2溝・5溝)とともに郡衙関連遺跡と推定されている。他に3間×2間が1棟ある。	千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1-山武町栗焼棒遺跡1998
18棟		滑石製巡方	平瓦(凸面正格子叩き目)		掘立柱建物跡は2間×2間が3棟(内総柱2棟)、3間×2間が1棟、3間×3間が2棟、4間×3間が2棟で集中して検出されている。	『千葉県成東町比良台遺跡群比良台・八坂台・真赤土遺跡』1992
		第6表参照		第6表参照	第一地点の調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献は印内遺跡と表記	小金線小金線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1973
			第二地点の調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献では印内遺跡と表記		小金線小金線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1973	
10棟	溝(東西方向に走り、貝層及び馬骨が出土)、土坑墓				第1調査掘立柱は2×3が5、2×2が1、不明が1である。	印内台古墳、奈良・平安時代の集落址、墓址の発掘調査概要1980
	土坑3基				第4次調査	印内台遺跡-第4次調査報告書1991
	土坑墓、火葬墓(中世を含む)、溝(東西方向に走る)、土坑(馬骨有)製鉄関連住居跡				第7調査	印内台遺跡-第7次・8次調査報告書1990
2棟	製鉄関連住居跡				第8次調査	印内台遺跡-第7次・8次調査報告書1990 印内台第8次船橋市内遺跡群発掘調査報告書1998
	土坑1基、ピット10基、溝2条				第15次調査(確認・本調査)2条の溝はほぼ東西方向に平行して延びており、両側溝をもつ道路の可能性が考えられる。	印内台遺跡第15次(確認・本調査)平成4年度船橋市遺跡発掘調査報告書1993
10棟(7世紀末~8世紀初頭)	土坑2基、溝1条				第19次調査掘立柱建物は総柱建物4で、3×2が1、3×4が1、2×2が2、2×1が2で、その他は不明である。7世紀末の竪穴住居は鍛冶関連の工房跡と考えられ、5~6回の拡張が行われている。また、金鍍金の耳環が1点出土している。	印内台遺跡群(19)平成8年度船橋市内遺跡報告書1997印内台遺跡(19)1997
2棟	土坑12基、溝1条、ピット16基				第20次調査(確認調査)古墳時代後期の竪穴住居は発見されていない。	印内台遺跡群(20)平成8年度船橋市遺跡発掘調査報告書1997
	土坑29基、ピット5基				第21次調査(確認調査)	印内台遺跡群(20)平成8年度船橋市遺跡発掘調査報告書1997
	土坑29基、ピット5基				第22-2次調査隣接する第22次調査区では確認調査の結果、当該時期の遺構・遺物は検出されていない。	印内台遺跡群(22)埋蔵文化財センター調査報告書第11集1998印内台遺跡群(22-2)平成9年度船橋市遺跡発掘調査報告書1998
2棟					第24次調査掘立柱建物はすべて側柱建物で、規模は不明である。竪穴住居跡は8世紀が9軒、9世紀以降が8軒である。古代から中世の溝はほぼ東西に延びて降り、硬化面があることから道として機能していたと考えられる。	印内台遺跡群(24)平成9年度市内遺跡発掘調査報告書1998印内台遺跡群(24)埋蔵文化財センター調査報告書第8集1999
					第23次調査確認調査で終了し、遺構の密度は非常に希薄である。	印内台遺跡群(23)平成9年度船橋市遺跡発掘調査報告書1998
	土坑1基ピット6基				第25次調査確認調査で終了	印内台遺跡群(25)平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書1999

No	地区	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目50-1ほか	台地	19m	大柏川	古墳末～奈良平安	8c後～9c末	官衛関連	13軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6-130-1ほか	台地	18m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	15軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目37-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	4軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目24-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目227-1ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	13軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目33ほか	台地	19m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	9軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目27	台地	20m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目16ほか	台地	20m	大柏川	古墳後期～奈良平安	8c前～9c前	官衛関連	20軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船7丁目104-1ほか	台地	20m	大柏川	奈良・平安	8c～9c	官衛関連	4軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目158番地1ほか	台地	17～18m	大柏川	奈良	奈良	官衛関連	1軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目160-1ほか	台地	17～18m	大柏川	中世			
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目166-1ほか	台地	15～17m	大柏川	古墳後期～奈良	奈良	官衛関連	3軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船7丁目100-1ほか	台地	20m	大柏川	奈良・平安～中世	奈良・平安	官衛関連	14軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目35ほか	台地	19～20m	大柏川	奈良・平安～中世	奈良・平安	官衛関連	8軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船5丁目85ほか	台地	18m	大柏川	古墳後期～平安	奈良・平安	官衛関連	17軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	西船6丁目73番地の1ほか	台地	18m	大柏川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	10軒
152	No.30船橋	下総	葛飾郡	東中山台遺跡	船橋市	東中山2丁目55ほか	台地	17m	大柏川	中世		官衛関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
15棟	溝2条、両側溝をもつ道路跡1条、奈良時代の木棺墓1基、土坑墓4基、火葬墓3基、馬埋葬土坑1基	第6表参照		第6表参照	本郷台遺跡第1次調査千葉県埋蔵文化財分布地図及び文献では本郷台遺跡と表記奈良時代の掘立柱建物の集中及び両側溝を持つ道路跡、火葬墓等が存在することなどから、一般集落とは異なり、官衙に関連する集落と考えられる。掘立柱建物は2×3が6、2×2が2、2×4が1、3×3が1、総柱建物の2×3が1で、その他は不明である。	本郷台奈良・平安時代を中心とした集落址の調査1979千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報1979
2棟	小堅穴4基、溝3条				本郷台遺跡第2次調査掘立柱建物は2×2が2溝の内2条は平行して延びていること、第1次調査で検出した両側溝をもつ道路状遺構と方向が近いことから、同じ遺構となるものと考えられる。	本郷台Ⅱ奈良・平安時代を中心とした集落址の調査1983
	火葬墓、溝				東中山台遺跡第1次調査(確認調査)本調査は本郷台第4次として実施。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	貝塚(但し、攪乱のため破砕貝のみ検出)				東中山台遺跡第2次調査(確認調査)全域にわたって攪乱を受けていたことから当該時期の明確な器高は検出されなかった。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	溝1条、土坑6基				東中山第3次調査(確認調査)本調査は本郷台第5次として実施。	東中山台遺跡(第1・2・3次調査)平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1992
	土坑9基				東中山台遺跡第4次調査(確認調査)	東中山台遺跡群第4次平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1993
	道路跡1条				東中山台遺跡第5次調査(確認調査)本調査は本郷台遺跡第6次として実施。道路跡は、8世紀中葉以降中世まで機能していたと考えられる。	東中山台遺跡群第5次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995本郷台遺跡第6次発掘調査報告書1996
4棟	ビット205基、溝3条、土坑34基、側溝をもつ道路跡1条、鍛冶工房1基、井戸1基、欄列3条、小堅穴12基、土坑墓2基				東中山台遺跡第6次調査(確認調査)本調査は、本郷台遺跡第7次として実施。2×3の四面庇の掘立柱建物は9世紀代で、村落内寺院の可能性が考えられる。SB04とSB03は拝殿と本殿になる可能性が考えられる。その他の掘立柱建物は9世紀代で3×2である。堅穴住居跡は7世紀後半から8世紀中葉が主体で、9世紀代は1軒である。欄列は1×6以上の物が1条ある。鍛冶工房は9世紀代で、四角庇の掘立柱建物に鉄製品を供給していたものと考えられる。	東中山台遺跡群第6次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995本郷台遺跡第7次発掘調査報告書2000
	溝2条、道路跡				東中山台遺跡第7次調査(確認調査)道路跡はほぼ南北に延びている。	東中山台遺跡群第7次平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1995
					東中山台遺跡群第8次調査(確認調査)本調査は平成7年度実施分を東中山台遺跡群第8次として、平成8年度実施分を東中山台遺跡群第9次として実施。遺跡の西側端部に位置し、中世の台地整形区画を主体とする地域となっている。	東中山台遺跡群(8)平成7年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1996東中山台遺跡群(8・9)埋蔵文化財センター調査報告書第3集
					東中山台遺跡群第10-2次調査第8・9次調査区に隣接し、中世の台地整形区画を中心とした地域と考えられる。	東中山台遺跡群(10-2)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998
4棟					東中山台遺跡群第10次調査(確認・本調査)	東中山台遺跡群(10)千葉県文化財発掘調査抄報平成9年度1999
	道路跡7条、土坑3基				東中山台遺跡群第11次調査(確認・本調査)寺院跡と考えられる四角庇の掘立柱建物が検出された。本郷台遺跡第7次調査他(本調査)の北側に位置する。	東中山台遺跡群(11)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998東中山台遺跡群(11)埋蔵文化財センター調査報告書第13集2000
22棟	土坑19基、堅穴条遺構1基				東中山台遺跡第12次調査(確認・本調査)掘立柱建物は2×2が6、3×2が7、3×3が1で、不明は8である。掘立柱建物及び堅穴住居跡は8世紀後半が中心となり、軸方向が同一である。	東中山台遺跡群(12)平成9年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1998東中山台遺跡群(12)平成10年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書1999東中山台遺跡群(12)埋蔵文化財センター調査報告書第14集2000
					東中山台遺跡群第13次調査(確認・本調査)	東中山台遺跡群(13)千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成9年度1999
	土坑4基		東中山台遺跡群第14次調査(確認・本調査)堅穴住居跡は奈良時代4軒、平安時代6軒である。	船橋市中山台遺跡群第14次調査地点県耐震橋梁緊急架換事業埋蔵文化財調査報告書財団法人千葉県文化財センター調査報告書第377集2000		
			東中山台遺跡群第15次調査(確認調査)東中山台遺跡群第8～10次調査の隣接他中世の溝のみ検出。	東中山台遺跡群(15)平成12年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書2000		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・居住居跡
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2丁目1番1の一部	台地	21m	江戸川	古墳後期～平安	8c初～9c初	国府関連	5軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間5-95-21ほか	台地	20m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間5-91-1.5.8	台地	20m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目371番14	台地	24m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	1軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台1丁目277番17	台地	24m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目374番2	台地	24m	江戸川	奈良・平安	8c後半～9c初頭	国府関連	1軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	市川市国府台5丁目376番11	台地	24m	江戸川	平安	9c以降	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	真間4丁目360番1の一部	台地	21m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	2軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台1丁目2番2の一部	台地	23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	14軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目447番27	台地	22m	江戸川			国府関連	
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台5丁目371番14	台地	23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	4軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安～中世	奈良・平安	国府関連	14軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安～中世	奈良・平安	国府関連	40軒
153	No.30船橋	下総	葛飾郡	国府台遺跡	市川市	国府台2-3-1	台地	21m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	7軒
44	No.30船橋	下総	葛飾郡	下総総社跡遺跡	市川市	国府台1-2-26	台地	22m	国分川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	12軒
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	真間5丁目47-20	台地	12m	国分川	古墳後期～平安	8c末～9c初	国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目399番6	台地	12m	国分川	古墳後期		国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-4	台地	10m	国分川	古墳後期～平安	8c後半	国府関連	
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-6	台地	11m	国分川	古墳後期～奈良	8c後半	国府関連	1軒
54	No.30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目399-7	台地	12m	国分川	古墳後期～平安	9c末～10c前半	国府関連	1軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
	道路状遺構 1 条	第 6 表参照		第 6 表参照	国府台遺跡台 1 地点の調査道路遺構はほぼ東西に延び、上端幅3.4～3.6mで、底面に長楕円形の掘り込みがある。7世紀末から8世紀初頭に比定される湖西産の須恵器杯類及び帯金具が出土していることから、下総国府との関連が考えられる。	国府台遺跡平成 2 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1991	
1 棟					国府台遺跡第 8 地点の調査掘立柱建物は桁行 11m、梁行 7.5～8m 程の布掘りである。倉庫の可能性が指摘され、第 3 地点で確認されている 2 棟の掘立柱建物と軸線の傾きが類似することから、国府における 1 つの官衙ブロックを形成している可能性がある。	国府台遺跡第 8 地点平成 7 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1996	
					国府台遺跡第 9 地点の確認調査すでに削平されているため、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡第 9 地点平成 7 年度市川市埋蔵文化財調査報告 1996	
1 棟			女瓦		国府台遺跡第 38 地点の確認調査	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
					国府台遺跡第 39 地点の確認調査盛土により平坦地となっており、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
					国府台遺跡第 44 地点の確認調査	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
					国府台遺跡第 45 地点の確認調査	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
					国府台遺跡第 3 地点 - 4 の確認調査	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
1 棟					国府台遺跡第 13 地点 - 3 の確認調査	国府台遺跡平成 10 年度市川市内遺跡発掘調査報告 1999	
					国府台遺跡第 48 地点の確認調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	国府台遺跡平成 11 年度市川市内遺跡発掘調査報告 2000	
					国府台遺跡第 46 地点の確認調査	国府台遺跡平成 11 年度市川市内遺跡発掘調査報告 2000	
2 棟	両側溝を持つ道路跡 1 条、溝 5 条、土坑 6 基、鍛冶工房 1 軒				宝相華文の軒平瓦	和洋学園国府台キャンパス第 1 次調査土坑 (SK7) は 2.23×1.8×0.5m の大きさで、多量の坏類及びニホンジカの骨などが出土しており、律令祭祀に関連するものと考えられる。両側溝をもつ道路跡はほぼ南北に延びている。	下総国府Ⅰ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 1 次調査概報 1997
9 棟	溝 11 条、土坑 48 基、鍛冶工房 4 軒、柱列 1 条、井戸跡 1 基					和洋学園国府台キャンパス第 2 次調査 SD1・7 の溝と両側溝をもつ溝 (SD3) は第 1 次調査で検出したものの延長と考えられる。土坑 (SK103) は直径 2.1m、深さ 1.5m で、100 点以上の獣骨 (ウマ、イヌ、ニホンジカ) と土師器・須恵器坏類が出土しており、律令祭祀に関連するものと考えられる。	下総国府Ⅱ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 2 次調査概報 1998
	溝 6 条、土坑 14 基、鍛冶工房 1 軒、両側溝をもつ道路跡 1 条			和洋学園国府台キャンパス第 3 次調査堅穴住居跡及び土坑は 10 世紀から 11 世紀前半である。両側溝をもつ道路跡 (SF2) や溝 (SD26・27) は第 1・2 次調査で検出したものと北西側で交わるものと考えられる。	下総国府Ⅲ和洋学園国府台キャンパス内遺跡第 3 次調査概要 1999		
	溝 5 条			須和田遺跡下総総社跡地点の調査 (市営総合運動場遺跡の西隣) 須恵器高台付坏・蓋・高台盤の出土量は群を抜き、国府の器種構成を端的に表している。大小さまざまな甕が多量にみられ、上記の食器を含めて、付近に国府施設あるいは醸造に関わる施設があったと想定し得る器種構成といえる。	下総総社跡発掘調査報告市川市出土遺物の分析 - 古代の鉄・土器について - 平成 7 年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告 1993		
	井戸状遺構 1 基			須和田遺跡第 4 地点の調査大形の土坑の中から須恵器及び土師器が意図的に破砕された状態で出土し、また、馬の骨も出土している。この土坑は、第 6 地点の土坑や市営総合運動場内遺跡第 4 次 26 号遺構と同じ性格を持つもので、下総国府に関連した律令祭祀的な意義を持つものと考えられる。	須和田遺跡昭和 63 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1989		
				須和田遺跡第 5 地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	須和田遺跡昭和 63 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1989		
	土坑 1 基 (井戸状遺構)		宇瓦 1 (内区均製唐草文、外区線画文)	須和田遺跡第 6 地点の調査下総国府推定地の東約 500m の地点で、大形の土坑の中から犬、馬、牛の骨、貝殻と伴に多量の須恵器及び土師器の坏、蓋、高台等が出土している。この土坑は律令祭祀に関連するものと考えられる。土坑内からは「石京」と墨書された須恵器蓋等が出土していることから、下総国府の関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡平成 3 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1992		
				須和田遺跡第 7 地点の調査	須和田遺跡昭和 63 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1989		
				須和田遺跡第 9 地点の調査円面硯が出土していることから、下総国府に関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡昭和 63 年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 1989		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・竪穴住居跡
54	Na30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目400番22	台地	10m	国分川	古墳後期		国府関連	
54	Na30船橋	下総	葛飾郡	須和田遺跡	市川市	須和田2丁目401-1	台地	10m	国分川	古墳後期～平安	8c前半～9c前半	国府関連	3軒
44	Na30船橋	下総	葛飾郡	下総総社跡遺跡	市川市	国府台1-2-26	台地	22m	国分川	奈良・平安	奈良・平安	国府関連	12軒
5	Na22松戸	下総	葛飾郡	新山遺跡	市川	国府台6丁目2423-7	台地	24m	国分川	8世紀中葉以降	奈良	官遺跡	
188	Na22松戸	下総	葛飾郡	下矢切東台遺跡	松戸市	三矢小台1-6-5ほか	台地	25m	江戸川	奈良～中近世	奈良	官道跡	
121	Na22松戸	下総	葛飾郡	坂花遺跡	松戸市	紙敷坂坂花、関台	台地	20m	国分川	8世紀後半	8世紀後半	官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野188番地	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	8軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140-36ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	8c末～9c前	官衛関連	1軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野173	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	3軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	1軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140-10	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野199-1	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野181-7	台地	27m	江戸川			官衛関連	
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野146-2	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒
170	Na22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野136-4ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	3軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名, 発行年)
		第6表参照	布目瓦3	第6表参照	須和田遺跡第10地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	須和田遺跡昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告1989
					須和田遺跡第21地点の調査堅穴住居跡の時期は、8世紀前から9世紀前半で、8世紀前半の堅穴住居跡から面内硯が出土している。下総国府に関連する地区に含まれると考えられる。	須和田遺跡平成4年度市川市内遺跡発掘調査報告1993
	溝5条				須和田遺跡下総総社跡地点の調査(市営総合運動場遺跡の西隣)須恵器高台付坏・蓋・高台盤の出土量は群を抜き、国府の器種構成を端的に表している。大小さまざまな甕が多量にみられ、上記の食膳具を含めて、付近に国府施設あるいは醸造に関わる施設があったと想定し得る器種構成といえる。	下総総社跡発掘調査報告市川市出土遺物の分析-古代の鉄・土器について-平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告1993
	道路跡1条				南北に直線的に作られた、幅4.6-6.6m、深さ1mの道路跡であり、南1.5kmの地点に下総国府推定地が存在する。	市川市新山遺跡北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ千葉県文化財センター調査報告第173集1990
	道路跡2条				南北に直線的に作られた両側溝を持つ道路跡であり、新山遺跡の道路跡の延長線上に位置する。	千葉県文化財センター年報24平成10年度1999
					「國厨」の墨書のある高坏を蓋とし、武蔵型の甕を身とした蔵骨器が出土しているが、遺構は不明である。「國厨」の墨書から、下総国府に関連するものと考えられる。昭和61年度の確認調査では当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	松戸市関台地区遺跡群確認調査報告書-関台遺跡-坂花遺跡-松戸市文化財調査抄報18 1987「厨」銘墨書土器考-松戸市坂花遺跡出土例をめぐって1994
3棟					小野遺跡第1地点の調査掘立柱建物の規模は、2×2が1棟(総柱建物)、3×3が2棟。堅穴住居内からカタイ等が出土しており、下総国府に関連することから、周辺に「村落内寺院」の存在が想定される。「石世」は「いわせ」と読むことが可能であり、遺跡が旧「岩瀬村」にあることから、地名を表すものと考えられる。	松戸市博物館紀要第1号小野遺跡第1地点出土遺跡について1993小野遺跡平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報1993小野-小野遺跡第1地点発掘調査報告1999
					小野遺跡第2地点の調査(確認・本調査)	小野遺跡第2地点の調査平成5年度市内遺跡発掘調査概報松戸市文化財調査報告第20集1994
	土坑3基、溝1条				小野遺跡第3地点の調査(確認調査)	小野遺跡第3地点の調査平成5年度市内遺跡発掘調査概報松戸市文化財調査報告第20集1994
					小野遺跡第5地点の調査(確認調査)攪乱のため当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第5地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995
		小野遺跡第6地点の調査(確認調査)攪乱のため当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第6地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995			
		小野遺跡第7地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第7地点の調査平成6年度市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第21集1995			
		小野遺跡第4地点の調査	小野遺跡第4・8地点の調査報告松戸市文化財調査報告第24集1996			
		小野遺跡第8地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡第4・8地点の調査報告松戸市文化財調査報告第24集1996			
		小野遺跡第9地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡の調査(第9地点)平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第25集1997			
		小野遺跡第10地点の調査(確認調査)当該時期の遺構・遺跡は検出できなかった。	小野遺跡の調査(第10地点)平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第25集1997			
		小野遺跡第11地点の調査(確認調査)	小野遺跡の調査(第11-13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998			
		小野遺跡第12地点の調査	小野遺跡の調査(第11-13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998 小野遺跡第12地点発掘報告書松戸市文化財調査報告書29集1998			

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・竪穴住居跡
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野140	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野174-1ほか	台地	27m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	1軒
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野198-1	台地	27m	江戸川	平安	平安	官衛関連	
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野149-2ほか	台地	28m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	官衛関連	軒数不明
170	No22松戸	下総	葛飾郡	小野遺跡	松戸市	胡録台字小野198-4	台地	28m	江戸川			官衛関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑945ほか	台地	22m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	81軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑923-4ほか	台地	14～16m	江戸川			駅家関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑905ほか	台地	20～22m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	3軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑607-1ほか	台地	21～23m	江戸川	奈良・平安	奈良・平安	駅家関連	1軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑683-2ほか	台地	22m	江戸川			駅家関連	
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑756ほか	台地	17～19m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	17軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑715ほか	台地	17～21m	江戸川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	19軒
186	No14流山	下総	葛飾郡	町畑遺跡	流山市	加字町畑934ほか	台地	18～19m	江戸川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	5軒
80	No22松戸	下総	葛飾郡	双賀田No.1遺跡	鎌ヶ谷市	中沢1027番地	台地	26m	台地川	奈良・平安	8c末～9c中葉	官衛関連	17軒
379	No32佐倉	下総	印旛郡	向原向原A・B・C地区遺跡	佐倉市	寺崎向原2498ほか	台地	30m	鹿島川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連(郷家)	88軒
350	No33酒々井	下総	印旛郡	高岡大山遺跡	佐倉市	上代字大山110ほか	台地	30～34m	高崎川	古墳後期～奈良・平安	奈良・平安	郡家	416軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
1棟		第6表参照		第6表参照	小野遺跡第13地点の調査掘立柱建物は2以上×2以上の総柱建物になるものと考えられる。	小野遺跡の調査(第11～13地点)平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第28集1998
					小野遺跡第14地点の調査(確認調査)	小野遺跡の調査(第14・15地点の調査)平成10年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第31集2000
	土坑2基				小野遺跡第15地点の調査	小野遺跡(第14・15地点の調査)平成10年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第31集2000
	土坑				小野遺跡第16地点の調査(確認調査)	小野遺跡平成11年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第32集2001
					小野遺跡第16地点の調査(確認調査)	小野遺跡平成11年度松戸市内遺跡発掘調査報告書松戸市文化財調査報告第32集2001
16棟			布目瓦		町畑遺跡A地点の調査加遺跡群から堅穴住居跡は、138軒検出され、8世紀第1が2軒、同第3が15軒、同第4～9世紀第1が22軒、同第2が14軒、同第3が15軒、同第4が12軒等となっており、8世紀後半から9世紀前半に本遺跡の台地全体にみられるようになる。掘立柱建物は17棟あるが、A地点に集中し、1棟のみF地点にある。掘立柱建物は、建て替えがあるが、すべて主軸をほぼ一にしている。3×5の総柱建物は、重複関係にある2×3の掘り方の大きい柱穴と組合わさって側柱をもつ総柱建物になる可能性がある。流山市域では、加遺跡群の他に北側に隣接する三輪野山遺跡群に奈良・平安時代の集落が見られ、当該時期における中心的な地域と考えられることから、本遺跡の掘立柱建物群は、「西津駅家」に関連する遺構の可能性が考えられる。	町畑遺跡A地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991 加地区遺跡群Ⅲ 流山市埋蔵文化財調査報告Vol.19 1994 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財調査報告Vol.29 2000
					町畑遺跡B地点の調査すでにローム層まで削平されており、当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	町畑遺跡B地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡C地点の調査	町畑遺跡C地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡D地点の調査	町畑遺跡D地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
					町畑遺跡E地点の調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	町畑遺跡E地点 加地区遺跡群Ⅱ 流山市埋蔵文化財報告Vol.14 1991
1棟			布目平瓦		町畑遺跡F地点の調査堅穴住居跡のうち小鍛冶関連遺構を伴うものが1軒ある。掘立柱建物跡は2×4で、梁行方向がほぼ南北にあってはいる。	町畑遺跡F地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
			布目平瓦		町畑遺跡G地点の調査	町畑遺跡G地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
					町畑遺跡H地点の調査	町畑遺跡H地点 加地区遺跡群Ⅳ 流山市埋蔵文化財報告Vol.29 2000
14棟			布目瓦		掘立柱建物は2×2が8、3×3が4、3×2が1、不明1で、すべて軸が方位に合っている。掘り方は方形のものが多い。	千葉県鎌ヶ谷市双賀辺田No.1遺跡発掘調査報告書 鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告第3集1998
121棟	土坑76基、欄列1条				堅穴住居跡の数量より掘立柱建物が多く、2地区に分けられる掘立柱建物群の主軸方向は、それぞれ一定の規則性が認められる。掘立柱建物は、3×2、2×2が82%で、総柱3棟、庇付きが13棟である。建物等において、特に官衛的な様相がみられないことから、郡衛の補完的な集落と考えられる。1×1が1、2×1が5、2×2が39、3×2が61、4×2が6、5×2が1、3×3が4、4×3が3、不明1である。	寺崎遺跡群調査報告書向原、土城掘、一本松遺跡1987
223棟	土坑200基以上断面が掘り鉢状の大形の土坑1基				3×2の側柱、2×2の総柱、1×1～5×5の紙面庇付き建物及び倉庫部と考えられる2×2の総柱の掘立柱建物が2棟認められる。堅穴住居跡と掘立柱建物は、それぞれ集中する地区が分かれており、掘立柱建物の配列状況及び出土遺物等や官衛に伴う祭祀に関連すると考えられる大形の土坑が存在することなどから郷家に関連する施設と考えられる。	高岡遺跡群1993

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構暨穴住居跡
272	No25成田	下総	印旛	大袋腰巻遺跡	成田市	大袋腰巻44他	台地上	35～40m	江川	8世紀前葉～9世紀中葉	8世紀前葉～9世紀中葉	郡衙関連集落	238軒
154	No25成田	下総	印旛	飯仲金堀遺跡	成田市	飯仲金堀449-1他	台地上	27～35m	江川	8世紀後半	8世紀後半	郡衙関連集落	12軒
362	No25成田	下総	印旛	宗吾西鷲山遺跡	成田市	宗吾3丁目	台地上	35m	江川	8世紀第1四半世紀～10世紀前半	8世紀第1四半世紀～10世紀前半	郡衙関連集落	95軒
71	No33酒々井	下総	印旛	本佐倉北押し出遺跡	酒々井町	本佐倉字鬼押出	台地上	34m	高崎川	奈良・平安時代～中世	8世紀前半～10世紀後半	郡衙関連集落	24軒
70	No33酒々井	下総	印旛	本佐倉外宿遺跡	酒々井町	上本佐倉字外宿	台地上	35m	高崎川	8世紀第Ⅲ四半世紀～9世紀第Ⅱ四半期	8世紀第Ⅲ四半世紀～9世紀第Ⅱ四半期	郡衙関連集落	20軒
22	No33酒々井	下総	印旛	伊藤白幡遺跡	酒々井町	伊藤字白幡	台地上	32m	印旛沼	古墳時代後期～奈良・平安時代	8世紀初～10世紀前半	郡衙関連集落	52軒
37	No34多古	下総	匝瑳	林遺跡	多古町	大字林榎台1106他	台地上	40m	栗山川	奈良・平安時代	8世紀中葉～10世紀	郡衙関連集落	89軒
259	No34多古	下総	匝瑳	吹入台遺跡	多古町	水戸字吹入台1445他	台地	約40m	多古橋川	奈良・平安時代	8世紀第1四半期～10世紀第四半期	郡衙関連集落	19軒
120	No34多古	下総	匝瑳	中内原遺跡	多古町	南中字中内2950他	台地上	35m	栗山川	古墳・歴史	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	36軒
80	No35八日市場	下総	匝瑳	柳台遺跡	八日市場市	飯塚字柳台1724他	台地上	40m	借当川	8世紀前葉～10世紀代	8世紀前葉～10世紀代	郡衙関連集落	213軒(Ⅱは204)
232	No35八日市場	下総	匝瑳	鈴歌遺跡	八日市場市	飯倉字鈴歌	台地上	約39m	(栗山川)	7世紀後葉～9世紀前葉	8世紀～9世紀前葉	官衙関連	31軒
225	No35八日市場	下総	匝瑳	生尾遺跡	八日市場市	生尾字妙見前406	台地上	約40m	借当川	7世紀中葉～11世紀後半	8世紀初～9世紀第3四半期	官衙関連	25軒
247	No35八日市場	下総	匝瑳	平木遺跡	八日市場市	市場市平木字大六天他	低地(砂州上)	約6m		古墳時代後期～奈良・平安時代	8世紀第2四半期～9世紀後半	郡衙関連遺跡	6軒
47	No34多古 No43成東	下総	匝瑳	芝崎遺跡	光町	芝崎字海老崎	低地		栗山川	古墳時代後期～奈良・平安時代	奈良・平安時代	郡衙関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
134棟	井戸跡3基、溝1 条、ピット群43基	第 6 表 参 照		第 6 表 参 照	掘立柱建物跡は4か所のまとまりが見られる。堅穴住居の分布と較べてよりまとまりがあり、全体で、郡衙関連集落（郷家？）を構成すると考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、4間×4間が2棟、3間×5間が6棟、3間×4間が7棟、3間×3間が8棟、2間×4間が2棟、2間×3間が35棟、2間×2間が41棟、1間×3間が1棟、1間×2間が17棟、1間×1間が14棟、不明が1棟である。	「千葉県成田市公津東遺跡群Ⅲ－大袋腰巻遺跡－」1998	
16棟	土坑12基		舌状台地上に3間×5間を最大とする掘立柱建物跡が南北に並んで検出された。出土建物から寺院関連跡の可能性が大きい。郡衙関連集落の可能性もある。		「飯仲金堀遺跡」〔千葉県成田市公津東遺跡群Ⅰ－成田市公津東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書－〕1994		
18棟			掘立柱建物跡は遺跡の南部に集中する。重複関係から8世紀第2四半世紀から形成され、堅穴住居跡とともに集落を構成したと考えられる。周辺の集落遺跡（公津東遺跡群）とともに郡衙関連集落と考えられる。		「千葉県成田市宗吾西鷲山遺跡発掘調査報告書」		
17棟			約40m×80mの範囲内で掘立柱建物跡が「コ」字状に配置される。内訳は、5間×3間が2棟、3間×3間が3棟、4間×2間が3棟、3間×2間が5棟、4間×1間が1棟、2間×2間が2棟、3間×1間が1棟である。		「酒々井町北押出し遺跡調査報告書」1984		
2棟	土坑3基		北押出し遺跡の東に隣接する遺跡である。堅穴住居跡の時期がほぼ同じなので、同一集落跡と考えられる。		「千葉県酒々井町本佐倉外宿遺跡」1996		
30棟			堅穴住居跡に伴い、掘立柱建物跡が数多く検出されている。とくに、A地点では、建物跡は小規模であるが、全体として、コ字状に配置されると考えられる。A地点では23棟、B地点では6棟、C地点では1棟である。A地点は、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×3間が1棟、3間×2間が5棟、2間×2間が6棟、1間×1間が1棟、不明が2棟である。B地点は、3間×2間が2棟、2間×2間が2棟、不明が2棟である。C地点は、1間×1間が1棟である。		「酒々井町伊籬白幡遺跡」1986		
23棟			掘立柱建物跡は踏台地区と長井戸地区に集中している。特に長井戸地区では東西方向に並んで検出されている。内訳は1間×1間が5棟、1間×2間が5棟、2間×2間が2棟、2間×3間が7棟、3間×3間が1棟、3間×4間が2棟、2間×4間が1棟である。		「林遺跡」1985		
23棟			掘立柱建物跡が集中して検出され、大きく2類に分かれている。A類は6棟で、4間×2間が2棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。B類は4間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が2棟ある。他は3間×2間が6棟、2間×1間が3棟、1間×1間が1棟である。		「多古工業団地内遺跡発掘調査報告書－林小原子台・栗根・土持台・林中1台・吹入台－」1986		
18棟			掘立柱建物跡が南北に二列に並んで検出されている。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が2棟、2間×2間が4棟、3間×2間が4棟、3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、4間×2間が1棟、5間×4間が1棟、6間×2間が1棟、不明が1棟である。		「中内原遺跡－千葉県香取郡多古町中内原遺跡発掘調査報告書－」1987		
8棟			掘立柱建物跡は検出されていないが、青銅製印等の出土遺物、墨書、「千校厨」などから軍団に関連した遺跡と考えられる。		千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書1986		
8棟			住居跡と掘立柱建物跡との重複が少なく、ほぼ同時期に存在したと考えられる。出土遺物から官衙関連遺跡と考えられる。内訳は5間×4間が1棟、6間×3（4？）間が1棟、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×1（2？）間が1棟、2間×1間が1棟である。		「千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書」1992		
29棟			掘立柱建物跡は、8世紀中葉～9世紀四半期が中心で、2回以上の建て替えがある。出土遺物等から官衙関連遺跡と考えられる。内訳は6間×1間が1棟、3間×3間が8棟、3間×2間が2棟、3間×1間が2棟、2間×1間が15棟である。		「八日市場市生尾遺跡配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査助成文化財センター発掘調査報告書第7集」1995		
7棟	井戸跡4基、溝17 条、水留遺構2基、 貝殻堆積土坑1基		掘立柱建物跡は2間×2間が3棟、2間×3間が2棟、3間×4間が1棟で、東西方向に「コ」字状に配置されている可能性がある。また、墨書「郡衙」「廳」などから郡衙関連遺跡と考えられる。		八日市場市平木遺跡1988		
							発掘調査中

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・竪穴住居跡
37	No.34多古	下総	匝瑳	林遺跡	多古町	大字林榎台1106他	台地上	40m	栗山川	奈良・平安時代	8世紀中葉～10世紀	郡衙関連集落	89軒
259	No.34多古	下総	匝瑳	吹入台遺跡	多古町	水戸字吹入台1445他	台地	約40m	多古橋川	奈良・平安時代	8世紀第1四半期～10世紀第四半期	郡衙関連集落	19軒
120	No.34多古	下総	匝瑳	中内原遺跡	多古町	南中字中内2950他	台地上	35m	栗山川	古墳・歴史	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	36軒
80	No.35八日市場	下総	匝瑳	柳台遺跡	八日市場市	飯塚字柳台1724他	台地上	40m	借当川	8世紀前葉～10世紀代	8世紀前葉～10世紀代	郡衙関連集落	213軒 (Ⅱは204)
232	No.35八日市場	下総	匝瑳	鈴歌遺跡	八日市場市	飯倉字鈴歌	台地上	約39m	(栗山川)	7世紀後葉～9世紀前葉	8世紀～9世紀前葉	官衙関連	31軒
225	No.35八日市場	下総	匝瑳	生尾遺跡	八日市場市	生尾字妙見前406	台地上	約40m	借当川	7世紀中葉～11世紀後半	8世紀初～9世紀第3四半期	官衙関連	25軒
47	No.34多古 No.43成東	下総	匝瑳	芝崎遺跡	光町	芝崎字海老崎	低地		栗山川	古墳時代後期～奈良・平安時代	奈良・平安時代	郡衙関連	
146	No.15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀四間戸ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衙関連	50軒以上
146	No.15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字掘込	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	
68	No.14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台433番地	台地	17～18m	大堀川	古墳後期～平安	平安	駅家周辺集落	3軒
68	No.14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台430番地	台地	18m	大堀川	奈良・平安	奈良・平安	駅家周辺集落	10軒
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原26-1ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	1軒
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原95番	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	奈良・平安	郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原81番3、日秀字西原16	台地	20m	利根川			郡衙関連	
139	No.15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原18番	台地	20m	利根川	8世紀前葉	8世紀前葉	郡衙関連	1軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衛関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
23棟		第6表参照		第6表参照	掘立柱建物跡は踏台地区と長井戸地区に集中している。特に長井戸地区では東西方向に並んで検出されている。内訳は1間×1間が5棟、1間×2間が5棟、2間×2間が2棟、2間×3間が7棟、3間×3間が1棟など。	【林遺跡】1985
23棟			掘立柱建物跡が集中して検出され、大きく2類に分かれている。A類は6棟で、4間×2間が2棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。B類は4間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が2棟ある。他は3間×2間が6棟など。		【多古工業団地内遺跡発掘調査報告書-林小原子台・栗根・土持台・林中「ノ」吹叶台・吹入台-】1986	
18棟			掘立柱建物跡が南北に二列に並んで検出されている。内訳は1間×1間が3棟、2間×1間が2棟、2間×2間が4棟、3間×2間が4棟、3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、4間×2間が1棟、5間×4間が1棟、6間×2間が1棟、不明が1棟である。		【中内原遺跡-千葉県香取郡多古町中内原遺跡発掘調査報告書-】1987	
			掘立柱建物跡は検出されていないが、青銅製印等の出土遺物、墨書、「千校厨」などから軍団に関連した遺跡と考えられる。		千葉県八日市場市飯塚遺跡群発掘調査報告書1986	
8棟			住居跡と掘立柱建物跡との重複が少なく、ほぼ同時期に存在したと考えられる。出土遺物から官衛関連遺跡と考えられる。内訳は5間×4間が1棟、6間×3(4?)間が1棟、4間×3間が3棟、4間×2間が1棟、3間×1(2?)間が1棟、2間×1間が1棟である。		【千葉県八日市場市飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書】1992	
29棟			掘立柱建物跡は、8世紀中葉～9世紀前半期が中心で、2回以上の建て替えがある。出土遺物等から官衛関連遺跡と考えられる。内訳は6間×1間が1棟、3間×3間が8棟、3間×2間が2棟、3間×1間が2棟、2間×1間が15棟である。		【八日市場市生尾遺跡配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査(助東総文化財センター発掘調査報告書第7集)1995	
					発掘調査中	
3棟以上	溝1条				昭和55年度(第二次)の確認調査西側のトレンチ(M)から古墳時代後期の堅穴住居跡を検出し、日秀西遺跡の古墳時代後期の集落の東端と考えられる。また、同じ西端のAトレンチから、ほぼ南北に走る溝を検出し、官衛城の東端を区画する溝と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981
1棟	溝1条				昭和56年度(第三次)の確認調査Iトレンチで昭和55年(第二次)確認調査のAトレンチで検出した大溝と掘立柱建物1棟を検出した。大溝は東向きを替えていることが明らかになった。掘立柱建物は1×1で、2本の銅柱をもつ。	No.14流山
					高野台遺跡の第一次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。	高野台遺跡(第一次調査)柏市埋蔵文化財調査報告書1883
1棟		唐草文字瓦(平安時代前期堅穴住居跡住居跡)	高野台遺跡の第二次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。掘立柱建物は2×3あるいは3×3の規模。唐草文字瓦は下総国分寺系のもと考えられ、他に印西市大塚前遺跡、流山市流山庵寺及び我孫子市船戸遺跡から出土している。	千葉県柏市根戸高野台遺跡発掘調査報告書1979		
			西原遺跡第1次調査日秀西遺跡の北北東約250m古墳時代後期(7世紀末)の住居跡2軒と奈良時代(8世紀前半)の住居跡1軒が検出されており別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衛城から外れるものと考えられる。	西原遺跡根戸遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第8集1986		
			昭和56年度(第三次)の確認調査Cトレンチでは古墳時代後期から奈良時代の住居跡及びピットを検出した。Dトレンチでは遺構・遺物はまったく検出されなかった。このことから、これらの地点は郡衛城からは外れるものと考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982		
	溝1条		西原遺跡第2・3・5次調査古墳時代後期の堅穴住居跡住居跡を主体とする。1号溝は幅約2m、深さ0.8mの逆台形で、ほぼ東西に走る。遺構の重複関係から7世紀以降と考えられ、正倉の北側区画溝と考えることもできる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		
			西原遺跡第4次調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		
			西原遺跡第6次調査郡衛城の北に位置するものと考えられる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999		

No.	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀79番地4	台地	20m	利根川	古墳～奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀101番地20号	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀74番9号	台地	20m	利根川	江戸以降	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀西84番1.2号	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	溝1条
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀74-12	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字チアミ75番地ほか	台地	20m	利根川	古墳後期	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字チアミ75番地ほか	台地	20m	利根川	近世	不明	郡衛関連	
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀77番2号ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	2軒
143	No15取手	下総	相馬郡	チアミ遺跡	我孫子市	日秀字西77番10	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	1軒
148	No15取手	下総	相馬郡	君作遺跡	我孫子市	古戸字日秀前198番3	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	1軒
68	No14流山	下総	相馬郡	高野台遺跡	柏市	根戸字高野台433番地	台地	17～18m	大堀川	古墳後期～平安	平安	駅家周辺集落	3軒
146	No15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字四間戸ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衛関連	50軒以上

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
	溝1条 (Bトレン チ)	第 6 表 参 照		第 6 表 参 照	昭和56年度の確認調査報告までは西・西原・別当地区とされているが、後にそのうちのA・B・Jトレンチはチアミ遺跡とされた。Aトレンチからは堅穴住居、円形周溝状遺構、ピットを検出したが、郡衙に関連する遺構・遺物はない。Bトレンチからはほぼ東西に走る溝(幅2mで逆台形の掘り込みをもつ)を検出し、昭和55年の四間戸遺跡Aトレンチの大溝に類似することから、官衙城の北側を区画する溝と考えられる。また、この溝の南北両側からは遺構は検出されていない。Jトレンチからは堅穴住居が検出されたが、時期は不詳であり、官衙に関連する遺構・遺物はない。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982	
						チアミ遺跡第1次調査日秀西遺跡の北東約200m郡衙等に関連する遺構、遺物は検出されていない。	チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
						チアミ遺跡第3次調査日秀西遺跡の北東約200m郡衙等に関連する遺構、遺物は検出されていない。	チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
						チアミ遺跡A地点の調査報告書では日秀遺跡とされているが、後にチアミ遺跡A地点に変更された。日秀西遺跡の北東約350m。溝の形状、規模が県文化財センターによる第2、3次日秀遺跡遺構確認調査で検出された溝に酷似している。第3次調査で検出した北側の東西方向に走る溝から370mほど北側にあり、やや東に偏る南北方向に走る溝である。	日秀遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第3集1983
						チアミ遺跡第2次調査日秀西遺跡の北東約100m。住居は7世紀代、溝は中近世であり、官衙に関連する遺構、遺物はない。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第4集1984
						チアミ遺跡第4次調査報告書ではチアミ遺跡とされているが、後にチアミ遺跡第4次と変更された。日秀西遺跡の北東約200m。住居跡は7世紀前半と7世紀末の2軒、時期不明の溝3条で、官衙に関連する遺構、遺物はない。但し、202203の溝は、3m前後の間隔で平行して北東から東西に延びており、幅はいずれも0.6~0.9m、深さは約0.5mで、断面形は箱薬研である。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第12集1989
						チアミ遺跡第5次調査報告書ではチアミII遺跡となっているが、後にチアミ遺跡第5次と変更された。日秀西遺跡の北東約200m。近世の土坑、溝、井戸のみで官衙に関連する遺構、遺物はない。溝は北西から南東に延び、幅1.0~1.6m、深さ0.4~0.65mで、断面形は逆台形である。掘立柱建物は2×3以上で、桁方向がほぼ北を向いたものが1棟検出されているが、時期、性格は不明とされている。	チアミ遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第12集1989
2棟						チアミ遺跡第6次調査日秀西遺跡の北東約200m。6、8号住居跡は、相馬郡家正倉と同時期である。2棟の掘立柱建物は2×3、3×3であるが、主軸方向は正倉の掘立柱建物跡建物に比べやや東に偏っていることから、正倉とは異なった基準のもとに建てられたと考えられる。内面視は、墨と朱墨の二面視で住居跡から出土。	チアミ遺跡第1次、第2次、第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第19集1998
1棟						チアミ遺跡第9次調査堅穴住居跡は時期が特定されていないが、隣接する第6次調査7世紀中葉~8世紀前半の堅穴住居が検出されていることから、同時期と推定されている。掘立柱建物は、柱穴1つのみの検出であるが、西側に展開する掘立柱建物の東側柱と考えられる。	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書チアミ遺跡・古屋遺跡・君作遺跡・古戸貝塚我孫子市埋蔵文化財報告第22集2000
1棟						君作遺跡第6次調査掘立柱建物は、規模・時期不明であるが、西隣の第5次調査で検出した掘立柱建物と同一と考えられる。堅穴住居跡は、8世紀中葉と考えられる。	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書チアミ遺跡・古屋遺跡・君作遺跡・古戸貝塚我孫子市埋蔵文化財報告第22集2000
				高野台遺跡の第一次調査「於賦駅家」周辺の集落と考えられる。	高野台遺跡(第一次調査)柏市埋蔵文化財調査報告書1983		
3棟以上	溝1条			昭和55年度(第二次)の確認調査西側のトレンチ(M)から古墳時代後期の堅穴住居跡を検出し、日秀西遺跡の古墳時代後期の集落の東端と考えられる。また、同じ西端のAトレンチから、ほぼ南北に走る溝を検出し、官衙城の東端を区画する溝と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981		

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
146	No15取手	下総	相馬郡	四間戸遺跡	我孫子市	日秀字掘込	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
142	No15取手	下総	相馬郡	符門神社遺跡	我孫子市	日秀字チアミ	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	郡衛関連	
142	No15取手	下総	相馬郡	符門神社遺跡	我孫子市	日秀字チアミ109-2ほか	台地	19m	利根川	縄文～古墳後期	不明	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原26-1ほか	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	1軒
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	日秀字西原	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原95番	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	奈良・平安	郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原81番3.日秀字西原16	台地	20m	利根川			郡衛関連	
139	No15取手	下総	相馬郡	西原遺跡	我孫子市	中里字前原18番	台地	20m	利根川	8世紀前葉	8世紀前葉	郡衛関連	1軒
136	No15取手	下総	相馬郡	南久保作遺跡	我孫子市	中里字南久保作484ほか	台地	19m	利根川	平安～中世	平安	郡衛関連	1軒
136	No15取手	下総	相馬郡	南久保作遺跡	我孫子市	中里字南久保作493-3.5	台地	18m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
140	No15取手	下総	相馬郡	日秀西遺跡	我孫子市	日秀	台地	20m	利根川	古墳後期～平安	奈良・平安	正倉	
140	No15取手	下総	相馬郡	日秀西遺跡	我孫子市	日秀	台地	19m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地106-2ほか	台地	19m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	6軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地109	台地	19m	利根川	不明	不明	郡衛関連	

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
1棟	溝1条	第6表参照	平瓦20点	第6表参照	昭和56年度(第三次)の確認調査Iトレンチで昭和55年(第二次)確認調査のAトレンチで検出した大溝と掘立柱建物1棟を検出した。大溝は東向きを替えていることが明らかになった。掘立柱建物は1×1で、2本の欄柱をもつ。Hトレンチでは古墳時代後期と思われる堅穴住居を検出した。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1981
					将門神社遺跡昭和54年度の確認調査。報告書ではチアミ地区とされているが、後に将門遺跡神社遺跡A地点と変更された。古墳時代後期から奈良・平安の堅穴住居が30軒前後検出され、掘立柱建物と考えられるピットも検出している。堅穴住居が群集する状況であり、正倉域からは外れているが、郡衙に関連した地域と考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1980
					将門神社遺跡B・C地点の調査。報告書では日秀遺跡跡東区とされているが、後に将門神社遺跡B・C地点に変更された。日秀西遺跡の東側に隣接する。古墳時代後期の住居跡9軒が検出されているが、これ以降の時代の住居跡は検出されておらず、別当地遺跡とは状況が異なっていることから、本地点は郡衙域の範囲に含まれるものと考えられる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
					西原遺跡第1次調査日秀西遺跡の北北東約250m古墳時代後期(7世紀末)の住居跡2軒と奈良時代(8世紀前半)の住居跡1軒が検出されており、別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衙域から外れるものと考えられる。	西原遺跡根戸遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第8集1986
					昭和56年度(第三次)の確認調査Cトレンチでは古墳時代後期から奈良時代の住居跡及びピットを検出した。Dトレンチでは遺構、遺物はまったく検出されなかった。このことから、これらの地点は郡衙域からは外れるものと考えられる。	千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982
	溝1条				西原遺跡第2, 3, 5次調査古墳時代後期の堅穴住居跡を主体とする。1号溝は幅約2m、深さ0.8mの逆台形で、ほぼ東西に走る。遺構の重複関係から7世紀以降と考えられ、正倉の北側区画溝と考えることもできる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
					西原遺跡第4次調査当該時期の遺構・遺物は検出できなかった。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
					西原遺跡第6次調査郡衙域の北に位置するものと考えられる。	西原遺跡第2～6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第21集1999
	建物跡1棟				南久保作遺跡第1次調査日秀西遺跡の西約300m。建物跡は、掘立柱跡1基のみ(一辺70m位の方形)が検出されたが、柱痕の状態で、日秀西遺跡で検出されたものに酷似する。	我孫子市埋蔵文化財報告第3集1983
					南久保作遺跡第3次調査日秀西遺跡の北西約250m。時期不明の土坑、ピットのみで、郡衙関連の遺構、遺物はない。	別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集1985
48棟	礎石建物6棟(版築)	玉縁付丸瓦及び平瓦		掘立柱建物のうち44棟は総柱、3×2が14棟、3×3が10棟、3×4が2棟、4×2が6棟、4×3が5棟、5×2、6×2、8×3、10×3が各1棟。礎石建物は、2棟が布貼りで、他は方形の掘込み地業を行う。礎石建物9号の版築中から鎮壇具と考えられる半蔵された和同開珎が出土している。倉庫群は、8世紀前半から9世紀後半までの3期にわたって機能していたものと考えられる。古墳時代後期の堅穴住居は、186軒検出されているが、7世紀末にこれらを排除するようにして掘立柱建物郡が作られている。	千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書1980	
1棟	基壇建物1棟				日秀西遺跡B・C地点の調査。報告書では日秀遺跡西区とされているが、後に日秀西遺跡B・C地点に変更された。日秀西遺跡の北側に隣接する。掘立柱建物は3×4の南北主軸で、4度東に偏る。基壇建物は、ロームを主体とする版築で、日秀西遺跡の38号建物跡と同一のものと考えられる。日秀西遺跡と同様に、古墳時代後期(7世紀中葉)の集落で一旦途切れ、建物群に移行することから、正倉域の範囲に含まれるものと考えられる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
					別当地遺跡第1次調査日秀西遺跡の北100m奈良時代の住居跡が6軒検出されている。古墳時代後期(7世紀)から継続して奈良時代の集落が営まれているものと思われる。北久保作遺跡第2次と同様に、正倉域からは外れているものと思われる。	我孫子市埋蔵文化財報告第2集日秀遺跡遺構確認調査別当地遺跡発掘調査1982
					別当地遺跡第2次調査日秀西遺跡の北80m時期不明の溝と土坑のみで、郡衙関連の遺構、遺物はない。	我孫子市埋蔵文化財報告第3集別当地遺跡1983

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中峠字別当地115-2	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	2軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中峠字別当地115-2ほか	台地	20m	利根川	不明	不明	郡衛関連	
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地106-8	台地	20m	利根川	古墳後期～奈良平安	奈良・平安	郡衛関連	4軒
137	No15取手	下総	相馬郡	別当地遺跡	我孫子市	中里字別当地103番地	台地	20m	利根川	古墳後期～中世	7C後半～8C前半	郡衛関連	2軒
185	No15取手	下総	相馬郡	北久保作遺跡	我孫子市	中里北中道224-12	台地	20m	利根川	奈良	奈良	郡衛関連	1軒
185	No15取手	下総	相馬郡	北久保作遺跡	我孫子市	中里字北久保作185	台地	18m	利根川	古墳後期～奈良	奈良	郡衛関連	5軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守522番1	台地	20m	利根川	奈良・平安	9世紀	郡衛関連	3軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守183番3	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	1軒
133	No15取手	下総	相馬郡	野守遺跡	我孫子市	古戸字野守183番6	台地	20m	利根川	奈良・平安	奈良・平安	郡衛関連	3軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	17～19m	大堀川	古墳後期～平安	奈良・平安	駅家関連	75軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	18～20m	大堀川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	48軒
64	No14流山	下総	相馬郡	中馬場遺跡	柏市	根戸字中馬場1852番地ほか	台地	18～19m	大堀川	古墳後期～中世	奈良・平安	駅家関連	69軒
175	No27岩部	下総	海上	妙名遺跡	山田町	小川字妙名	台地上	41m	栗山川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衛関連集落	6軒
129	No28小南	下総	海上	池尻遺跡	干潟町	清和甲字池尻982他	台地	約50m	黒部川	古墳時代後期～奈良・平安時代	9世紀中葉～10世紀前半	郡衛関連集落	36軒
133	No28小南	下総	海上	諏訪山遺跡	干潟町	溝原字諏訪山778他	台地	約50m	黒部川	奈良・平安時代	8世紀後半～10世紀前半	郡衛関連集落	11軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)
		第6表参照		第6表参照	別当地遺跡第4次調査日秀遺跡の北西約200m古墳時代後期(7世紀後半)の住居跡1軒と奈良時代(8世紀後半)の住居跡2軒が検出され、継続して集落が営まれていることから、別当地遺跡第1次と同様に、本地点は郡衛城から外れているものと考えられる。	別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集1985
			昭和56年度(第三次)の確認調査E・Gトレンチからは堅穴住居跡と小ピットを検出したが、時期は不詳である。Fトレンチからは遺構、遺物はまったく検出されなかった。郡衛に関連する遺構、遺物はない。		千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報1982	
			別当地遺跡第10次調査奈良・平安時代の堅穴住居跡は主軸方向がすべてほぼ北を向いている。5号堅穴住居跡(9世紀第3四半期)からは鎌、刀子、鋤先、紡輪などの鉄製品と風子硯のように加工した転用硯が注目される。		別当地遺跡粟牧西遺跡我孫子市埋蔵文化財第20集1999	
			別当地遺跡第6次調査日秀西遺跡における古墳時代後期堅穴住居跡の広がりと考えられる。「支那諸国」(7世紀後半～8世紀前半)の人名墨書の須恵器は、郡家もしくはそれに先行する官衛に深く関わる人々の存在を示す資料として注目される。		別当地遺跡第6次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第23集2000	
			北久保作遺跡第1次調査日秀西遺跡の北西約400m。堅穴住居跡は、相馬郡家正倉と同時期である。溝1条は、時期性格不明であるが、住居跡の主軸方向と同じ、東に15度偏る南北方向に走る。		我孫子市埋蔵文化財報告第3集北久保作遺跡1983	
1棟			北久保作遺跡第2次調査日秀西遺跡の北西約250m。古墳時代(7世紀末)住居1軒あり、継続して奈良時代の住居跡が営まれていることから、正倉群の状況とやや異なることから、郡衛城から外れると考えられる。ただし、銅製の鈎帯丸納(表面に黒漆?)が出土していることから、正倉に関係する集落が営まれていた可能性がある。掘立柱建物は2×3の側柱である。		別当地・南久保作・北久保作遺跡我孫子市埋蔵文化財報告第6集北久保作遺跡1985	
2棟			野守遺跡第2次調査堅穴住居跡は、9世紀前半～9世紀後半のものである。掘立柱建物は、いずれも規模・時期不明であるが、掘立柱建物の形状や柱間が著しく不均等である。		野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第25集2001	
3棟			野守遺跡第4次調査堅穴住居跡は、8世紀第2四半世紀のものである。掘立柱建物は、2×2以上が1棟、片側6以上が1棟、不明が2棟である。時期は、8世紀第2四半世紀以降と9世紀第3～第4四半世紀及びそれ以降である。		野守遺跡第2次・第4次発掘調査報告書我孫子市埋蔵文化財報告第25集2001	
3棟	土坑1基		野守遺跡第5次調査掘立柱建物はいずれも側柱で、2×3が1棟、3×2以上が2棟である。主軸方向はいずれも北からわずかに東に偏っているが、同一方向を向いている。時期は9世紀第3～第4四半世紀である。鈎の出土は、我孫子市では初めての事例であり、正倉や付近の掘立柱建物での使用が想定される。		平成12年度市内遺跡発掘調査報告書五郎地遺跡第1次・野守遺跡第5次我孫子市埋蔵文化財報告第24集2001	
3棟			中馬場遺跡第2次調査当該地域における大規模な集落であり、古代の東海道(官道)に設置された「於賦駅家」に比定する考えがある。堅穴住居跡は奈良時代が12軒、平安時代が63軒である。掘立柱建物は2×2の総柱が1棟、2×3の側柱が2棟である。		中馬場遺跡妻子原遺跡日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団1972	
		中馬場遺跡第3次調査堅穴住居は奈良時代が8軒、平安時代が40軒である。	中馬場遺跡第3次発掘調査報告書1976			
	鍛冶遺構を伴う住居跡2軒	中馬場遺跡第4次調査堅穴住居は奈良時代が8軒、平安時代が61軒である。	中馬場遺跡(第4次)柏市埋蔵文化財報告書381999			
		堅穴住居跡のみの検出であるが、墨書に「厨」が出土している。	「妙名遺跡-北総東部用水事業に伴う埋蔵文化財調査-」1971			
12棟(以上)		掘立柱建物跡がほぼ同一方向に並んで検出された(北東から東西方向)。内容は2間×3間が5棟、3間×3間の東南の二面廂が1棟、3間×3間の南西廂が1棟、3間×3間が3棟、3間×4間が1棟、2間×2間が1棟である。掘立柱建物跡、墨書から郷家的な様相を示すと考えられる。	「主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2-干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡-千葉県文化財センター調査報告第280集」1996			
2棟	土坑9基	掘立柱建物跡は2間×3間が1棟、2間×3間が1棟である。池尻遺跡につらなる台地上で、郷家的遺跡の可能性はある。	「干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書-干潟町諏訪山遺跡・十二殿遺跡・茄子台遺跡・桜井遺跡-、千葉県文化財センター調査報告書第321集」1998			

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
148	No28小南	下総	海上	桜井平遺跡	干潟町	桜井字郷主家塚243他	台地	約52m	黒部川	奈良・平安時代	8世紀後葉～10世紀前半	郡衙関連集落	4軒
25	No18佐原西部	下総	香取	名木天神台遺跡	下総町	名木字天神台748他	台地上	39m	常向川	7世紀末～9世紀前葉	7世紀末～9世紀前葉	郡衙関連集落	37軒
43-1	No18佐原西部	下総	香取	青山富木遺跡	下総町	青山字富ノ木36他	台地	38m	常向川	奈良・平安	8世紀前半～10世紀前半	郡衙関連集落	35軒
208-2	No18佐原西部	下総	香取	中山遺跡	佐原市	福田字中山	台地上	40m	栗山川	平安時代	9世紀第2四半期～9世紀第4四半期	郡衙関連集落	12軒
209	No18佐原西部	下総	香取	馬場遺跡	佐原市	福田字馬場	台地上	39m	栗山川	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	郡衙関連集落	4軒
212	No18佐原西部	下総	香取	東野遺跡	佐原市	本矢字東野	台地上	40m	香西川	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	8世紀第3四半期～9世紀第2四半期	郡衙関連集落	10軒
91-2	No19佐原東部	下総	香取	吉原山王遺跡	佐原市	丁字天ノ宮他	台地上	40m	根本川	8世紀後半～9世紀末	8世紀後半～9世紀末	郡衙関連集落	92軒
82	No19佐原東部	下総	香取	長部山遺跡	佐原市	香取字宮下長部山他	台地上	40m	根本川	8世紀後半～10世紀前半	8世紀後半～10世紀前半	郡衙関連集落	93軒
184	No19佐原東部	下総	香取	古屋敷遺跡	小見川町	上小堀字古屋敷	台地上	40m	利根川	8世紀前半～10世紀初頭	8世紀前半～10世紀初頭	郡衙関連集落	43軒
19	No17下総滑川	下総	香取	荒海江地山	成田市	荒海字江地山254ほか	台地上	30m	長沼	8世紀前半～9世紀前半	8世紀前半～9世紀前半	荒海駅関連集落	148軒
276	No25成田	下総	埴生	上福田和田谷津遺跡	成田	上福田字和田谷津98-1他	台地上	30m	十日川	古墳後期～奈良・平安	7世紀後半～8世紀	郡衙関連集落	2軒
171	No25成田	下総	埴生	中台遺跡	成田	加良部3丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀～9世紀後半	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	143軒
170	No25成田	下総	埴生	加良部遺跡	成田市	加良部4丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀第2四半期～9世紀第3四半期	8世紀後半～9世紀	郡衙関連集落	66軒
169	No25成田	下総	埴生	郷部松ノ下遺跡	成田市	加良部1丁目	台地上	34.5m	小橋川	8世紀中葉～9世紀前半	8世紀中葉～9世紀前半	郡衙関連集落	52軒
169	No25成田	下総	埴生	郷部松ノ下遺跡 郷部八ツ又遺跡	成田市	加良部1丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	14軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
	土坑2基 鍛冶炉2	第6表参照		第6表参照	墨書が下総国海上郡軽部郷と関連した遺跡と考えられる。	〔干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書-干潟町諏訪山遺跡・十二殿遺跡・茄子台遺跡・桜井平遺跡-、千葉県文化財センター調査報告書第321集〕1998	
12棟					3間×2間を主体とした掘立柱建物跡が、帯状の狭い調査範囲の中で、11棟集中して検出され、郷倉的な様相を示す。内訳は3間×2間が5棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟、2間×1間が1棟、?×1間が1棟である。	〔千葉県文化財センター調査報告書371集-下総町名木天神台遺跡-主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書四〕1999	
3棟					墨と朱墨を使用した二面風子硯が、奈良時代後半と思われる堅穴住居跡から出土している。掘立柱建物跡の内訳は、2間×2間の総柱が2棟、3間×2間が1棟である。	〔下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡-主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅶ-千葉県文化財センター調査報告書370集〕1999	
1棟	土坑11基					墨書土器から郡衙関連遺跡と考えられる。掘立柱建物跡は3間×2間である。	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
	土坑4基					「香取郷」「譚草里」に相当する墨書が出土	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
						二彩火舎、墨書から官衙関連遺跡と考えられる。	〔東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-佐原地区(1)-〕1988
	溝4(道路跡か)条					掘立柱建物跡はないが、人名、郷名などの墨書が多く出土している。墨書の内容から香取神官の神戸「下総国香取郡神戸大槻郷」に関連した集落である。	〔佐原市吉原三王遺跡-東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅴ(佐原地区2)-千葉県文化財センター調査報告書第178集〕1990
17棟						堅穴住居跡と掘立柱建物跡が重複して検出されている。掘立柱建物跡は、平安時代が主体である。規格は2間×2間が3棟、3間×2間が14棟である。調査区の西端部に検出されている。	〔佐原市長部山遺跡跡香取市文化財センター調査報告書第5集〕
1棟	土坑24基					掘立柱建物跡は1棟のみの検出であるが、帯金具、墨書「山崎」「曹司」などから「山崎」郷の中心的な集落跡と考えられる。2×3-1棟	〔古屋敷遺跡-跡香取郡文化財センター調査報告書第63集〕1999
1棟						荒海・磯部地域の最も大きな集落で、近接の第5号塚の塚下から奈良三彩小壺が出土している。掘立柱建物跡は3間×3間で、北側1面廂である。	〔荒磯千葉県成田市荒磯地域の調査考古篇〕1994
2棟					丸瓦	同一方向の掘立柱建物跡が2棟検出されている。2間×3間で、1棟は側柱2本が組になった布掘である。	〔成田市上福田和田谷津遺跡〕「主要地方道成田安食線地方道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」1993
6棟					平瓦(縄叩き)	6棟の掘立柱建物跡は隣接又は重複して検出された。6棟のうち5棟は建物方向がほぼ同じであるので、全体として小倉庫群を形成すると考えられる。また隣接した堅穴住居跡から帯金具が出土している。当遺跡は埴生郡衙と推定される大畑遺跡群の南南東約5kmに位置している。以上から当遺跡は郡衙関連集落の可能性が高い。掘立柱建物の規模は3間×3間が1棟、3間×2間が4棟、2間×2間が1棟である。時期は住居跡との重複関係から8世紀後半である。	〔公津原Ⅱ〕1981
16棟						三間四面廂等の掘立柱建物跡を中心とした寺院跡であるが、帯金具が出土しているため、郡衙関連の集落跡の可能性もある。当遺跡は埴生郡衙と推定される大畑遺跡群の南南東約5kmに位置する。掘立柱建物は三間四面廂(5間×5間)1棟、1間×1間が1棟、2間×2間が3棟、3間×2間が6棟、3間×3間が3棟、4間×2間が4棟である。三間四面廂の掘立柱建物の時期は掘立柱建物群と住居跡との重複から8世紀後半と考えられる。	〔公津原Ⅱ〕1981
	土坑1基					郷部・加良部遺跡の北西に隣接した遺跡で、同一台地上である。また郷部・加良部遺跡と同様の墨書土器が出土しているため、同一集落になる可能性がある。	〔公津原Ⅱ〕1981
	堅穴状遺構1基					郷部・加良部遺跡の北西に隣接し、同一台地上である。また郷部・加良部遺跡、郷部・堀尾遺跡と同様の墨書土器が出土しているため、同一集落の可能性が高い。	〔公津原Ⅱ〕1981

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
90	No25成田	下総	埴生	石塚遺跡 山口遺跡	成田市	中台1丁目	台地上	33m	小橋川	8世紀後半～9世紀	8世紀後半～9世紀	郡衙関連集落	54軒
86	No25成田	下総	埴生	引地遺跡	成田市	吾妻3丁目	台地	33～35m	印旛沼	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	13軒
85	No25成田	下総	埴生	戸崎I～III遺跡	成田市	吾妻3丁目	台地上	33～35m	印旛沼	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	5軒
84	No25成田	下総	埴生	戸崎IV遺跡	成田市	玉造7丁目	台地上	35m	小橋川	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半～9世紀前半	郡衙関連集落	2軒
81	No25成田	下総	埴生	外子代遺跡	成田市	玉造1丁目	台地上	33m	印旛沼	8世紀前半～10世紀前半	8世紀前半～10世紀前半	郡衙関連集落	37軒
311	No25成田	下総	埴生	野毛平木戸下向山遺跡	成田市	野毛平字木戸下1009他	台地上	39m	取香川	8世紀後半～10世紀代	8世紀後半～10世紀代	郡衙関連集落	17軒
311	No25成田	下総	埴生	野毛平木戸下向山遺跡	成田市	野毛平字木戸下1009他	台地上	39m	取香川	8世紀後半～10世紀代	8世紀後半～10世紀代	郡衙関連集落	18軒
335	No25成田	下総	埴生	野毛平植出遺跡	成田市	野毛平字植出1088他	台地上	38m	取香川	8世紀代後半～9世紀代後半	8世紀代後半～9世紀代後半	郡衙関連集落	16軒
434	No25成田	下総	埴生	野毛平千田ヶ入遺跡	成田市	野毛平字千田ヶ入1172～3他	台地上	40m	取香川	8世紀後半～9世紀後半	8世紀後半～9世紀後半	郡衙関連集落	23軒
436	No25成田	下総	埴生(香取?)	長田船久保遺跡	成田市	長田船久保904他	台地上	40m	取香川	9世紀代	9世紀代	郡衙関連集落	2軒
437	No25成田	下総	埴生(香取?)	長田土上台遺跡	成田市	長田土上台755他	台地上	41m	取香川	9世紀代	9世紀代	郡衙関連集落	4軒
110	No25成田	下総	埴生	馬場扇ノ作遺跡	成田市	馬場扇作73～1他	台地上	39m	取香川	8世紀中葉～9世紀中葉	8世紀中葉～9世紀中葉	官衙関連集落	19軒
133	No25成田 No26新国際空港	下総	埴生(香取?)	堀ノ内遺跡群遺跡	成田市	堀ノ内字西の台141～1他	台地上	41m	取香川	8世紀末～9世紀前半	8世紀末～9世紀前半	郡衙関連集落	24軒
50	No25成田	下総	埴生	大畑I遺跡	栄町	龍角寺字大畑870他	台地上	28～30m	印旛沼	古墳時代後期～奈良時代	7世紀第4四半紀～8世紀第4四半紀	埴生郡衙推定地	13軒
54	No25成田	下総	埴生	大畑II遺跡	栄町	龍角寺字大畑849他	台地上	29m	印旛沼	7世紀第4四半紀～9世紀初	7世紀第4四半紀～9世紀初	埴生郡衙推定地	5軒
49	No25成田	下総	埴生	向台遺跡	栄町	大字酒直字向台地先	台地上	30m	印旛沼	7世紀末～9世紀初	7世紀末～9世紀初	埴生郡衙推定地	13軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
9棟	鍛冶遺跡10基	第6表参照		第6表参照	三間四面廂等の掘立柱建物跡を中心とした寺院跡と考えられるが、帯金具、墨書土器から郡衙関連の集落の可能性もある。掘立柱建物跡は5間×2間の四面廂が1棟、3間×2間の四面廂が2棟、7間×2間が1棟、3間×2間が3棟、2間×2間が2棟である。時期は8世紀中頃から後半にかけてと思われる。	〔公津原Ⅱ〕1981	
1棟					掘立柱建物跡は2間×2間の総柱で集落の規模は小さいが、郡衙関連集落の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
					Loc29に続く台地上に位置するLoc29と同様に郡衙関連集落の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
					戸崎Ⅳ(Loc33A・B)遺跡(古墳後期集落跡)と同一台地上に位置する。また、Loc29・30に隣接し郡衙関連の可能性はある。	〔公津原Ⅱ〕1981	
6棟					掘立柱建物跡6棟の内5棟は方向がほぼ同じで、小倉庫群を形成している。郡衙関連遺跡の可能性もある。また周辺の奈良・平安時代の集落跡よりも継続期間が長い。掘立柱建物跡は3間×2間が3棟、2間×2間が1棟、2間×1間が1棟である。時期は8世紀後半と思われる。	〔公津原Ⅱ〕1981	
9棟	土坑7基					出土遺物から郡衙関連遺跡の可能性はある。野毛平向山と同一台地上にある。掘立柱建物跡は2間×3間が2棟、2間×2間が7棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書〕1990
7棟	土坑3基					野毛平木戸下と同一台地上にある。大形柱穴の掘立柱建物跡、四面廂の掘立柱建物跡が検出されている。身舎1間×1間の四面廂が2棟(建替え)、2間×3間が2棟、2間×2間が1棟、不明が2棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
18棟						2間×3間を主体とする掘立柱建物跡が台地先端部に集中して検出され、また巡方などの遺物から郡衙関連集落と考えられる。掘立柱建物跡は、2間×4間が2棟、2間×3間が9棟、2間×2間の総柱が1棟、2間×2間が2棟、不明が4棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
3棟	土壌墓2基					近隣の遺跡と同時期であり、堅穴住居跡と掘立柱建物跡との構成から、郡衙関連集落と考えられる。掘立柱建物跡は、2間×3間が1棟、2間×2間が1棟、不明が1棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
1棟	古鍛冶跡					長田北台と同一台地上にある。小規模な集落であるが、遺物から郡衙関連と考えられる。掘立柱建物跡は2間×3間が1棟である。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
4棟	土坑5基					長田舟久保と同一台地上にある。同時期なので同一の集落と考えられる。	〔ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)〕1990
				堅穴住居跡からカコ、温石が出土している。官衙もしくは仏教関連の集落として考えられる。	〔千葉県成田市馬場副作遺跡-東京電力株式会社社会食糧増強(Ⅱ期)工事に伴う埋蔵文化財調査〕1998		
				〔隆平永寶〕の出土から郡衙関連集落と考えられる。	〔成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ(城の内遺跡)〕1983		
111棟	井戸跡4基溝1条(郡衙城を区画する溝)		丸瓦5点、平瓦1点	最大3間×9間の掘立柱建物跡が「L」字形に配置されることが確認された。掘立柱建物跡は5時期に区分され、Ⅱ期からⅤ期にかけて、L字形配置が継続している。これら、及び隣接の向台遺跡から、埴生郡衙跡と推定される。掘立柱建物跡は総数111棟検出された。その内、規模が明確なものは、42棟である。内訳は9間×3間が2棟、6間×3間が2棟、6間×2間が2棟、5間×3間が6棟、5間×2間が1棟、4間×3間が3棟(内1棟が総柱)、4間×2間が4棟、3間×3間が2棟、3間×2間が14棟、3間×1間が1棟、2間×2間が4棟	〔主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書〕1985〔栄町大畑Ⅰ-2遺跡〕1985〔千葉県印旛郡栄町大畑Ⅰ-3遺跡〕1994〔栄町埴生郡衙跡確認調査報告書〕1986〔栄町埴生郡衙跡確認調査報告書Ⅱ〕1987		
6棟	溝状遺構5条		丸瓦片、平瓦片	龍角寺古墳群内に掘立柱建物跡が検出され、一般的な集落跡とは考えにくい。大畑Ⅰ遺跡から続く埴生郡衙の遺構と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、2間×5間が2棟、2間×3間が2棟、2間×2間が1棟、2間×2間の総柱が1棟である。	〔財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第14集-栄町龍角寺ドライブイン建設予定地内埋蔵文化財報告書-大畑遺跡Ⅱ遺跡〕		
8棟	遺物集中地点1		平瓦、丸瓦	大畑Ⅰ遺跡に東接する遺跡で、大畑Ⅰ遺跡からの穏やかな斜面部に大量の土器が出土した(遺跡集中地点)官衙的性格が強い遺跡で、大畑Ⅰ遺跡の範囲と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、2間×2間の総柱が3棟、3間×2間の総柱が1棟、2間×2間が1棟、4間×3間が1棟、2間以上×2間が1棟である。	〔主要地方道成田安食線道路改良工事(住宅地関連事業)地内埋蔵文化財発掘調査報告書〕1985		

No	地図	国名	郡名	遺跡名	市町村	所在地	立地	標高	水系	時期	当該時期	性格	遺構・穴住居跡
50	No25成田	下総	埴生	大畑 I 遺跡 (向台 II)	栄町	酒直字向台464 - 2他	台地上	24~29m	印旛沼	奈良・平 安	奈良・平安	埴生郡衙 推定地	4軒
50	No25成田	下総	埴生	大畑 I 遺跡 敷内遺跡	栄町	龍角寺字敷内828 他	台地上	30m	印旛沼	7世紀後 半~10世 紀初頭	7世紀後半~ 8世紀中葉	埴生郡衙 関連集落	7軒
77	No25成田	下総	埴生	郷部加定地遺 跡他	成田市	郷部字加定地1232 他	台地上		小橋川	8世紀~ 11世紀	8世紀~11世 紀	郡衙関連 集落	
62	No33酒々 井	下総	埴生	塚越遺跡	富里町	新中沢	台地上	28m	高崎川	8世紀後 半~9世 紀前半	8世紀後半~ 9世紀前半	郡衙関連 集落	11軒
175		下総	埴生	開護台遺跡群									
		下総	埴生	大竹林畑遺跡	成田市	大竹	台地上		坂田ヶ池				46軒
408	No25成田 No17下総 滑川	下総	埴生	南羽鳥正福寺 遺跡第2地点	成田市	南羽鳥字正福寺 986番地他字高野 1175 - 1番地他	台地上	25~35m	根木名川	古墳時代	6世紀~7世 紀代		1軒
53	No41千葉 東部	下総	千葉 郡	鷺谷津遺跡	千葉市	中央区千葉寺町 771他	台地上	23m	都川	旧石器~ 中近世	古墳時代末~ 平安時代	駅家関連	144軒
55	No41千葉 東部	下総	千葉 郡	観音塚遺跡	千葉市	中央区千葉寺町 722-20番地他中 央区千葉寺町720 -8番地他	台地上	22m	都川	旧石器時 代~平安 時代	古墳時代末~ 平安時代	駅家関連	213軒
54	No41千葉 東部	下総	千葉 郡	大北遺跡	千葉市	中央区宮崎町711	台地上	25m	都川・村 田川	古墳時代 後期~平 安時代初 頭	7世紀末~8 世紀初頭	駅家関連	37軒
58	No41・47 千葉東部 蘇我	下総	千葉 郡	芳賀輪遺跡	千葉市	若葉区古泉町・野 呂町	台地上	47m	鹿島川	旧石器時 代~平安 前半期	7世紀後半~ 9世紀末	居館	124軒

掘立柱建物跡	その他遺構	遺物 官衙関連遺物	出土瓦	特殊遺物	概 要	文 献 (書名、発行年)	
4棟	製鉄遺構1基	第6表参照		第6表参照	大畑遺跡群から連続すると考えられる掘立柱建物跡が検出された。	『財団法人印旛郡市文化財センター』年報9「平成4年度」1993『財団法人印旛郡市文化財センター』年報10「平成5年度」1994	
2棟	棚列2条 溝3条		大畑遺跡群に隣接する遺跡で埴生郡衙に関連した集落と考えられる。掘立柱建物跡の内訳は、4間×2間1棟、?×2間以上である。		『財団法人印旛郡市文化財センター』発掘調査報告書第60集千葉県印旛郡栄町敷内遺跡調査報告書』1991		
			成田市開護台遺跡群及び公津原遺跡群に隣接し埴生郡衙の関連集落と考えられる。遺跡は、加定地遺跡、南台Ⅰ遺跡、南台Ⅱ遺跡、殿台遺跡、立野遺跡		『123郷部北遺跡群』『千葉県歴史資料編考古3(奈良・平安時代)』1998		
2棟	土坑2基		主屋2間×3間の四面廂の掘立柱建物跡が検出され、墨書、和同開珎から寺院遺構の可能性もある。		『財団法人印旛郡市文化財センター』発掘調査報告書第138集千葉県印旛郡富里町富里第二工業団地土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査』1998		
4棟						『大竹林畑遺跡-成田市都市計画公園5・5・4坂田ヶ池総合公園事業地内埋蔵文化財調査一』1997	
	円墳4基、溝状遺構7条、方墳1基、土坑23基						
34棟						大北遺跡に関連して、駅家の運営の中心的な役割を担った可能性あり。	千葉県鷲谷津遺跡-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書
22棟	土坑、井戸					鷲谷津遺跡と同様の性格が考えられる。	千葉県観音塚遺跡・地蔵山遺跡(3)-都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ-観音塚遺跡千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
27棟	方形周溝1基、土坑11基、溝1条					多量の畿内産土師器出土。郡衙・駅家等の官衙的性格。	大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群-千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-
152棟	土坑21基 小鍛冶跡2基 豪族の居館跡1カ所					8世紀末から9世紀前半の豪族の居館跡と想定される。	千葉県芳賀輪遺跡-第一次発掘調査概報-千葉県芳賀輪遺跡-平成2年度調査報告書-千葉県芳賀輪遺跡-平成4年度調査報告書-千葉県芳賀輪遺跡-平成8年度調査報告書-芳賀輪遺跡太田アラク遺跡「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」『千葉史学』第2号「第3章下総109芳賀輪遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3(奈良・平安時代)』県史シリーズ11

研究紀要25

平成18年3月30日 発 行

発 行 者 財団法人 千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809-2
電話 043 (422) 8811

印 刷 所 株式会社 エリート情報社 印刷出版局
千葉県成田市東和田415-10
